

リアホナ



リアホナ



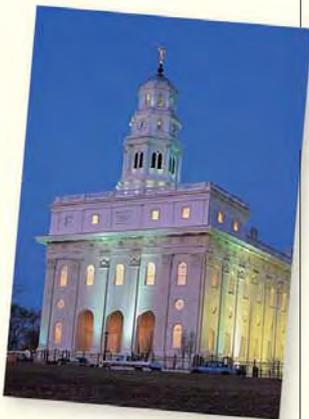
表紙

トム・ホールドマン作のステンドグラス。写真/フロイド・ホールドマン、トム・ホールドマン。「歴史の断片、光のかけら」8ページ参照。



「フレンド」表紙

絵/ディリオン・マーシュ



16ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ——永遠に続く結婚 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 8 歴史の断片、光のかけら
- 25 家庭訪問メッセージ——誘惑と戦う備え
- 26 霊界を訪られた救い主 七十人 スペンサー・J・コンディー
- 31 新約聖書の時代を概観する 初期の使徒たち——使徒の生涯と手紙
- 42 末日聖徒の声
御父の娘の世話を任せられ アネット・キャンランド・アルジャ
わたしが神を見つけたのではなく、
神がわたしを見つけてくださったのです ヨッヘン・A・バイゼルト
ファイル先生ありがとう カール・ネルソン
- 48 『リアホナ』2003年7月号の活用法

青少年

- 16 信仰をたどって 十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 21 ポスター ——心を尽くして神を愛しなさい
- 22 締め出されて ミッシェル・トーリー
- 34 栄光ある卒業 ガブリエル・ゴンザレス
- 36 秘境に輝く光 リン・S・トパーム
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 預言者の声——いのりという命づな
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 4 新約聖書ものがたり——しとたち、教会をみちびく
／ペテロ、人をいやす
- 9 しんでんカード
- 10 ベンのおくり物 ハワード・R・ドリッグズ
- 13 ちいさなみんなのために
——かいたくしゃの絵を作ろう
- 14 分かち合いの時間——「わたしにしたがってきなさい」
ビッキー・F・マツモリ
- 16 特別な証人——信仰のたて
十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー



36ページ参照



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジ
エームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, デビッド・
B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン,
ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワー
スリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフ
リー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンスバウンダー

顧問:J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウェスト
実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ポールセン, ドン
L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オーヌ, スーザン・パレット, ライ
アン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリー・ポーター・ガート,
シャナ・ガスナビ, ジェニファー・L・グリーンウッド, リサ・アン・ジャク
ソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, メリン・ミンソン, サリ
ー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ジョ
ナサン・H・スティーブンソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ
ー, ジャネット・トーマス, ポール・バンテンバーク, ジュリー・ワーデル,
キンバリー・ウェブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ポット,
ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステン
セン, プレント・クリスティン, シャリー・クック, ケリー・リン・C・ヘリ
ン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーター
ソン, ランドール・J・ピクストン, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・ティア
ー, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振
替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/
00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただ
ければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送につ
いてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-
6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話
03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
Eメール: cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」
の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア
語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア
語, キルバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語,
スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語,
タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語,
日本語, ルウエー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンラン
ド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル
語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア
語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2003 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines July 2003.
Japanese. 23987 300

For Readers in the United States and Canada:
July 2003 no. 7 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is
published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East
North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per
year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt
Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice
required for change of address. Include address label from a recent issue; old
and new address must be included. Send USA and Canadian subscription
and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription
help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American
Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information:
Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



「正しかれ」

2001年3月号の『リアホナ』(スペイン語版)に掲載されたリチャード・G・スコット長老の記事、「正しかれ」に感謝しています。わたしの娘が年若くして若い男性と恋をしていることが分かったとき、怒りを覚え、不当なことを言ってしまいました。しかしその夜、わたしはこの若い二人にどのような助けをしたらよいか祈りました。そして翌日、この記事を読み、答えを見いだしたのです。

娘と話をし、その記事の中から何段落かを読んだとき、わたしたちは一緒に泣きました。それからその若い男性とも話しました。その箇所を読んでから、彼に赦しを求めました。彼も『リアホナ』を読んでいて、この助言がわたしだけの意見でないことを理解していました。この助言をしてくれたのは、主の使徒なのです。この経験によりわたしたち3人は一つになることができました。スコット長老の助言がなかったなら、どうしていたか分かりません。

ペルー・リマ・チョリヨスステーキ
チョリヨスワード
ロザリオ・コウメナレス

『教師、その大いなる召し』

少し前にわたしはほかの教会に所属している友人を訪問しました。それからというもの、様々な機会を通して彼にわたしたちの教会について話をしてきましたが、彼は興味を示しませんでした。ですから、『教師、その大いなる召し——福音を教えるための

資料集』を読んでいる、と彼から聞いたときには驚きました。彼はその内容に引かれましました。わたしは教会の会員であり、指導者でもあります。またその本を持っていなかったもので、どのようにして手に入れたのか尋ねました。すると、彼はおいからそれをお願い、そのおいも別のだれかから譲り受けたということでした。

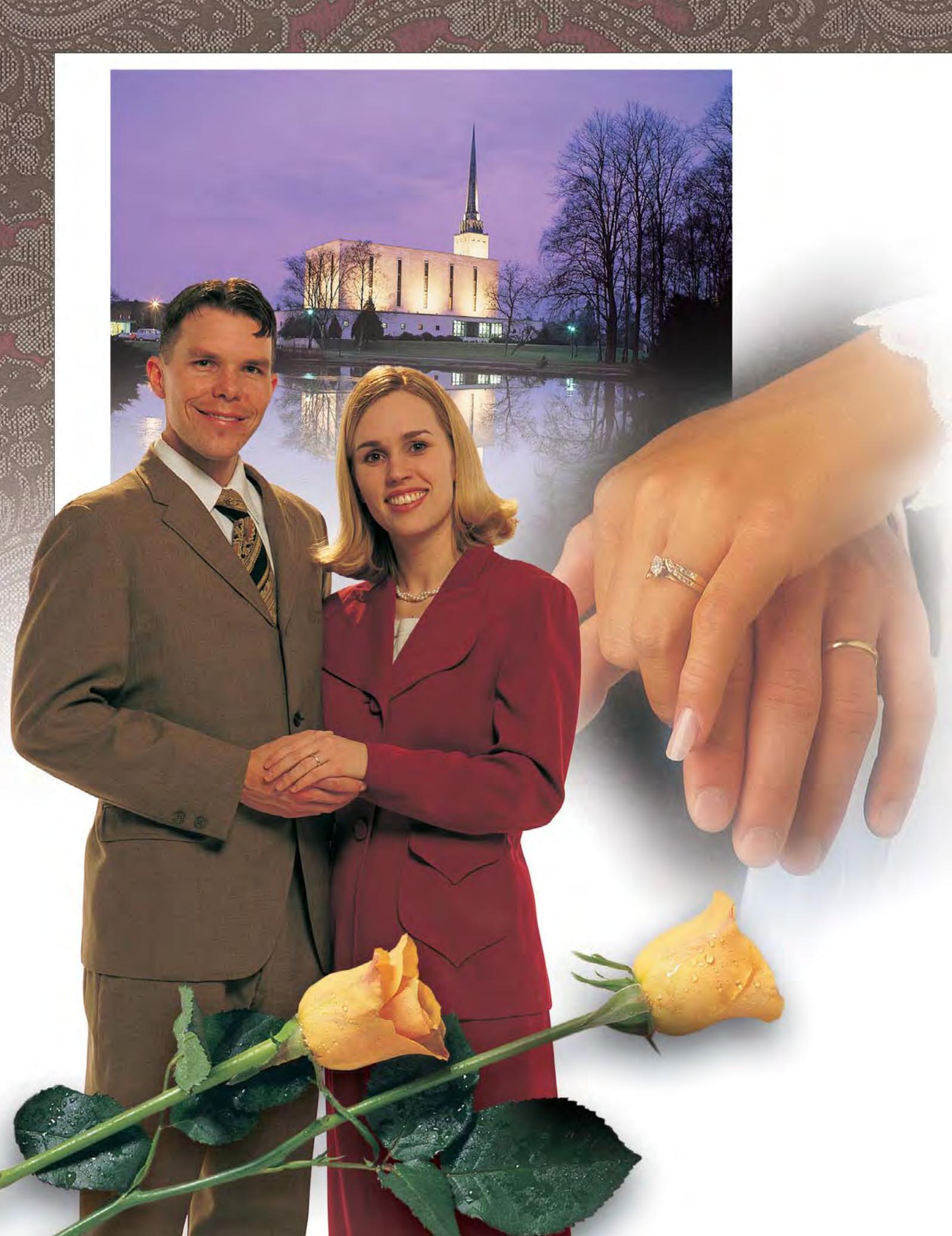
わたしは標準聖典と教会の出版物があることを天の御父に心から感謝しています。それらは末日聖徒ばかりでなく、全世界の人々にとっても役立っているのです。
ニカラグア・マナグア・ルベンダリオ地方部
ルベンダリオ支部
フェリッパ・ウルピナ

若人の力になっている、ヒンクレー大管長の勧告

わたしは今、16歳です。今日、人から借りた『リアホナ』(スペイン語版)を読んでいます。読んでいうちに、預言者の勧告にどれだけ自分が助けられてきたか思い出しました。わたしは教会が真実であることを知っています。しかし両親はわたしがバプテスマを受けることを望んでいません。それでも1年半の間、宣教師活動を助けながら、教会に通っています。

神と語り、神の御心をわたしたちに伝えてくれる預言者がいるのは、すばらしいことです。わたしは総大会や衛星放送を通して、預言者が若人に清くあるように、また、ほかの人の良い模範となるように助言しているのを、何度か見ました。この助言のおかげでわたしは教会の教えは真実で、だれでもそれを実践するなら助けが得られることをクラスの友達に伝えることができました。

アルゼンチン・コルドバ西ステーキ
アルト・アルベルディワード
マテオ・ペレラ



永遠に続く 結婚

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

初めに二つの経験を紹介したいと思います。一つは何十年も前、建設されて間もないワシントンD.C.神殿での出来事です。大勢の報道記者が詰めかけていました。ほかの教会の建物と概念や目的が違い、神聖な内部に入ることのできる人も異なっているこの美しい建物に、彼らは好奇心を抱いていました。

建物が主の宮として奉献されてからは資格ある教会員しか中に入れられないもの、奉献しないうちは1か月ないし1か月半の間、内部全体をだれでも見学できることを説明しました。また、わたしたちは神殿を世間の目から隠すつもりはないが、神殿が奉献された後は非常に神聖なものと考えているので、清い生活をし、教会の標準をきちんと守っている人しか入ることはできないことも説明しました。

わたしたちは神殿を建てる目的について話し、特に、心ある男女ならだれでも関心があると思われる事柄、すなわち永遠の結婚について説明しました。そのとき、1958年にイギリス・ロンドン神殿が奉献される前に公開されたときの経験を思い返しました。

イギリスで会った新婚夫婦

その日、興味を抱いた何千人もの熱心な人々が、建物に入るために長蛇の列を作っていました。交通整理に当たった警官が、イギリス人がこんなにも教会へ入りたがっているのを見るのは初めてだと語りました。

建物の見学者は最後にまとめて質問をすることになっていました。わたしは夜だけ、宣教師とともに、質問のある人たちと話をしました。ある若いカップルが神殿の正面階段を下りて来たとき、何かお分かりにならないことはありませんか、と尋ねてみました。すると、女性が率直にこう答えました。「ええ、ある部屋で『永遠の結婚』という言葉を書きましたが、それはどういうことですか。」そこで、わたしたちは門の近くにある古いかしの木の下ベンチに腰かけました。指にはめられた結婚指輪が二人が夫婦であることを物語り、握り合った手が互いの愛情の程を示していました。

「さて、先ほどの質問ですが」とわたしは切り出しました。「あなたがたは地元の教会で結婚されたのですか。」

「はい、ほんの3か月前です。」彼女は答えました。



**わたしたち
すべての人の御父は
子供たちを愛し、
子供たちに
最善のものを
与えるために、
人間関係のうちで
最も神聖で崇高な
結婚と家族の関係が
正しい状況の下で
続くように計らって
くださいました。**

「牧師さんが司式するとき、別れについても宣言されたのがお分かりになりましたか。」

「どういうことでしょう。」彼女はすぐに聞き返してきました。

「あなたは命が永遠だと信じていらっしゃるんですね。」

「はい、もちろんです」と、彼女は答えました。

わたしは続けて言いました。「永遠の愛なしに永遠の命が考えられますか。御二人とも、互いに別れ別れになった永遠の幸福を想像できますか。」

すると即座に「いいえ」という答えが返ってきました。

「でも、牧師さんはあなたがたの結婚式で何とおっしゃいましたか。わたしが間違っていなければ、こういうことを言われたはずです。『病めるときも健康のときも、そして富めるときも、貧しいときも、良い日も、悪い日も、命のあるかぎり』と。それが牧師さんの権能の及ぶ範囲なのです。つまり死が二人を分かちます。もしあなたがたがその場で質問を投げかけたとしたら、墓を超えて結婚や家族が存続することはない、と牧師さんははっきり言われたことでしょう。」

わたしは続けました。「しかし、わたしたちすべての人の御父は子供たちを愛し、子供たちに最善のものを与えるために、人間関係のうちで最も神聖で崇高な結婚と家族の関係が正しい状況の下で続くように計らってくださいました。」

救い主と使徒たちの偉大で感動的な言葉のやり取りの中で、ペテロが『あなたこそ、生ける神の子キリストです』と言うと、主は『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である』と答えられました。主はそれからペテロや弟子たちに向かって、こうおっしゃっています。『わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。』（マタイ 16：13-19参照）

権能を授与するそのすばらしい機会に、主は使徒たちに、生死を超えて永遠に及ぶ力を持つ聖なる神権の鍵を授けられたのです。これと同じ権能が、昔これを持っていた使徒たち、つまりペテロ、ヤコブ、ヨハネによって、現在地上に回復されて存在しています。」そう話してから、今度の

日曜日に神殿が奉獻された後、この神聖な宮に結婚式をしにやって来る人たちのために、それと同じ聖なる神権の鍵が使われると伝えました。その人たちは死によっても分かたれず、時がたっても滅びないきずなで結ばれるのです。

これがあのとときイギリスで、新婚夫婦に述べたわたしの証あかしです。今日皆さんに告げる証きょうもそれと同じであり、わたしは世のすべての人々にも同じ証を告げるものです。天の御父はその子供たちを愛し、子供たちが今も永遠にも幸福になるよう願っておられます。人間関係のうちで最も意義深い夫婦と親子の関係に勝る幸せはどこにも見いだせません。

「愛はバラのようなものだろうか」

何十年も前、わたしは大病で入院しているある母親の臨終まぐらの枕もとに呼ばれました。程なく彼女は、夫と4人の子供を残して亡くなりました。下の子は6歳の男の子でした。痛ましく、つらい、深い悲しみがその場を覆いました。しかし彼らの涙の奥底から、美しい確かな信仰が輝き出しました。それは、今悲しい別離があるのと同じように確かに、いつか必ずうれしい再会があるという信仰です。この夫婦の結婚は聖なる神権の権能により、主の宮でこの世から永遠にわたって結び固められて出発したからです。

女性を真心から愛する男性、男性を真心から愛する女性であるならば、だれでも自分たちの愛が永遠に続くことを望み、夢見るものです。しかし結婚は権能によって結ばれる聖約です。もしそれが国の権能であれば、国が権限を有する間しか効力はなく、また、この効力は死によって終わりとなります。しかし国の権能に、死を乗り越えた御方から恵みの力が加えられ、夫婦が約束したことを守ってふさわしく生活するならば、その関係は死後も続きます。

わたしがはるかに若く、もっと体が丈夫だったころ、踊った曲にこんな歌詞がありました。

愛はバラのようなものだろうか、
咲いて育て
そして色あせ
夏が過ぎると枯れてしまう。

これはただのダンス用のバラード曲です。しかしこれは、互いに愛し合う男女が、時を超え永遠の将来を見詰めて幾世紀もの間抱き続けてきた疑問でもあります。

そしてその疑問に対してわたしたちは、そんなことはないと答えます。啓示された主の計画の下では、愛と結婚は、夏が過ぎれば枯れてしまうバラのようではないことを再度強調しておきます。愛と結婚は、天の神が永遠であられるように、確かに永遠です。

しかし、何よりも貴いその賜物は、自制や徳、神の戒めに対する従順といった代価を払ってのみ得られるのです。そうした代価を支払うのは難しいかもしれませんが、真理を理解すれば、この賜物を得たいという動機が生まれ、可能となります。

「口から出る証」

あるときブリガム・ヤング大管長（1801-1877年）はこのように述べました。「様々な物事を正しく理解したならば、正しい結婚をするためなら、ここから英国まで旅をせよと言われても、それをいと青年はわたしたちの社会にはいません。また福音を愛し、福音の祝福を望みながら、違った結婚をするような女性は、我々の社会にはいません。」¹

大勢の人が神殿結婚の祝福を受けるために長い旅をしています。まだ自国に神殿が建てられる前、ハワイ州ライエ神殿への参入のために、食事を抜いてまでお金を蓄えた日本の末日聖徒たちを知っています。ヨハネスバーグに神殿ができる以前には、南アフリカからイギリスのサリーにある神殿まで、必需品にも事欠く中で7,000マイル（約1万1,000キロ）の空の旅をしてきた人々にもお会いしました。彼らの目には輝きがあり、顔には笑みがあり、口から出る証は、神殿の祝福は自らが払ったどのような犠牲にもはるかに勝る価値

がある、という言葉でした。

かつてニュージーランドで、オーストラリアの西岸から来たという男性の証を聞いたことがあります。民事結婚をした後で妻子とともに教会に入った彼は、あの広大な大陸を渡りタスマン海を越えてニュージーランドのオークランドに着き、美しいワイカト溪谷の神殿に参入しました。この男性がこのようなことを言っていたのを覚えています。「とても神殿訪問する余裕はありませんでした。我が家の財産といえば、古い車と家具と食器だけでしたので、わたしは家族に『神殿に行けそうにない』と言いました。でも美しい妻やかわいい子供たちの顔を見詰めたとき、わたしの口を突いて出た言葉はこうでした。『神殿に行かないわけにはいかない。主が父さんに力を与えてくださるなら、うんと働いてまた車や家具や食器は買える。だが愛するおまえたちを失うことにでもなったら、それこそこの世だけでなく永遠に惨めになってしまうからな。』」

啓 示された
主の計画の
下では、
愛と結婚は、
夏が過ぎれば
枯れてしまう
バラのようではなく、
永遠のもので
す。しかし、何よりも
貴いその賜物は、
自制や徳、神の戒め
に対する従順
といった代価を
払ってのみ
得られるのです。



ジョニーは
メアリーに
こう言ったと

想像してみてください。
「メアリー、ほくは
君を愛している。
ほくの妻に、
ほくたちの子供の母親
になってほしい。
でも永遠には嫌だ。」
これは愚かな話では
ないでしょうか。



正しく結婚し、正しく生活する

わたしたちの多くはいかに先を見通すこともなく、いかに明日を考えずに今日だけにとらわれていることでしょうか。しかし、明日という日は確実に来ます。死も別離も確実に来ます。正しく結婚し、正しく生活するなら

ば、家族のきずなは、必ず訪れる死や過ぎ行く時を乗り越えて続くのです。そのことを知るときに得られる平安は、どれほど心の慰めとなることでしょうか。またその確信はいかに麗しいことでしょうか。人は愛の歌を書き、歌います。望み、あこがれ、そして夢見るこ

ともあります。しかし、時と死の力を超えた権能で結び固められなければ、それらは皆、ロマンチックなあこがれにしかすぎません。

昔、ジョセフ・F・スミス大管長（1838-1918年）はこう語りました。「主の家は秩序の家であって混乱の家ではありません。……これはさらに神の律法と神の家の秩序に従わずに、この世から永遠にわたって結び合わされることは決してないという意味です。人々はそれを望み、この世において形の上でそれができるかもしれません。しかし、神の権能により、御父と御子と聖霊の御名^{みな}によって執行され、認められないかぎり、その結びつきは何の効力も有しません。」²

まとめるに当たって、一つの話をしてみましょう。実話ではありませんが、そこに流れている原則は真実です。満月が輝き、バラが花開くとき、若い二人の間に聖なる愛が熟したとしましょう。ジョニーはメアリーに言いました。「メアリー、ぼくは君を愛している。ぼくの妻に、ぼくたちの子供の母親になってほしい。でも永遠には嫌だ。ある期間だけで、後はさよならだ。」するとメアリーは月の光に涙を浮かべて言いました。「ジョニー、あなたはすてきだわ。世界にたった一人しかいない人よ。あなたを愛しています。わたしの夫に、わたしたちの子供の父親になってください。でもほんのしばらくだけ。それでさよならよ。」

愚かな話ではないでしょうか。しかし、「新しくかつ永遠の聖約」（教義と聖約132：19）によって永遠に結ばれる機会があるのに、それに目を向けることなく、死によって終わる結婚を選ぶ人たちは、この男女のプロポーズの言葉と実際は同じことを言っているのではないのでしょうか。

永遠の命

命は永遠です。天の神は永遠の愛と永遠の家族関係を実現されました。

神の祝福があって、皆さんが結婚を待ち望み、あるいは結婚について深く考えるとき、報いのある交わりやこの世の全生涯にわたる実り豊かな家族関係を探し求めるだけでなく、神の約束の下で愛と貴い交わりを確かめ合える、いっそうすばらしい状態に目を向けることができますように。

わたしは、この権能の源である主イエス・キリストが実際に生きておられることを証します。キリストの力、キリストの神権がわたしたちの間に存在し、主の聖なる宮で行使されていることを証します。主が授けられたものをないがしろにしてはなりません。それにふさわしく生活し、その恵みにあずかり、主の聖なる神権^{きよ}の聖めの力で、皆さんのつながりを結び固めてください。■

注

1. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』181
2. *Gospel Doctrine*, 第5版（1939年）, 272

ホームティーチャーへの提案

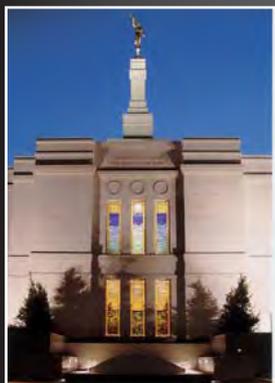
よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその一例です。

1. これまで隣人や友人に永遠の結婚について説明しなければならなかったことがあるか、担当家族に尋ねる。もし説明を求められたら、どのように話せばよいと思うか、意見を出してもらおう。ヒンクレー大管長がイギリスで出会った新婚夫婦にどのように説明したか、一緒に読む。家族を二つのグループに分け、永遠の結婚について説明する練習をする。

2. 家族にバラの花またはそのほかの花を見せる。愛はどのような点で花に似ており、どのような点で似ていないか尋ねる。「愛はバラのようなものだろうか」の項と一緒に読む。主の計画は愛と結婚が永遠のものとなることを目的としていることを証する。

3. 適切であれば、担当家族がプロポーズのときに言った言葉、あるいは言おうと思う言葉について話し合う。その後、ヒンクレー大管長のメッセージから最後の5段落を読む。現在どのような状況に置かれていようと、永遠の結婚と愛に満ちた家族を優先するよう、家族に勧める。

歴史の断片 光の かけら

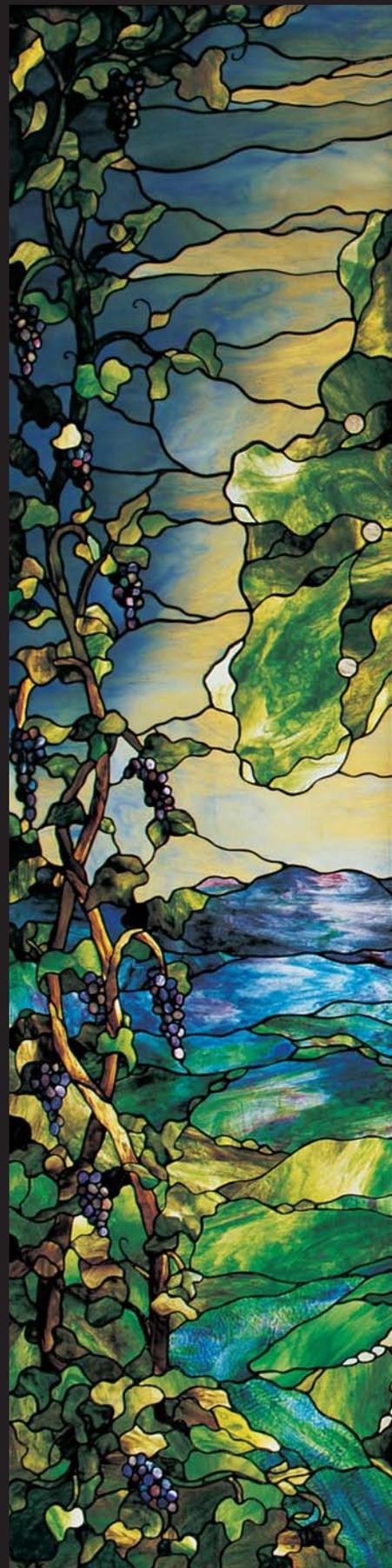


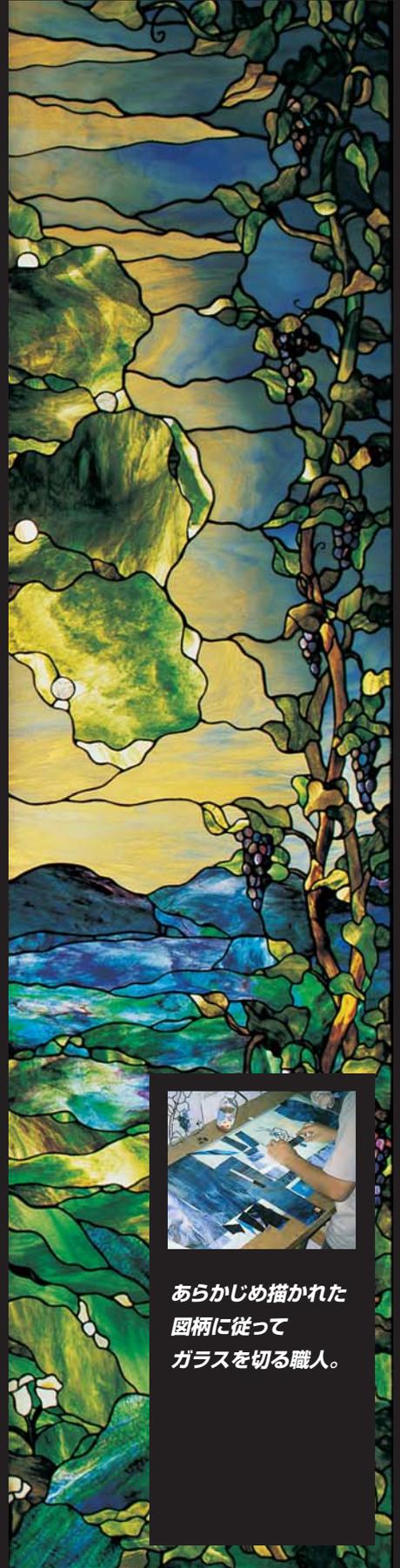
1846年から1847年にかけての冬、ウィンタークォーターズ（ミズーリ川西岸のインディアン特別保護区内の入植地。現在のオクラホマ州内に位置する）には、約3,500人の聖徒たちが、丸太小屋や粗末な家に住んでいました。ミズーリ川を挟んだ対岸のアイオワ州には、さらに2,500人が野営していました。だれもが、西方のシオン

へ向かって出発できる春を待ちわびていました。

その冬は、聖徒たちにとって大変苦しいものでした。「ぬかるんだ」アイオワ州を横断して衰弱していたうえに、食料や生活用品もほとんどなく、雨風を避ける場所にも事欠いていたのです。新鮮な野菜が不足していたために、壊血病にも悩まされました。さらに男性500人がモルモン大隊に取られており、多くの女性が

上——ネブラスカ州ウィンタークォーターズ神殿。右ページ——日の栄えの部屋に描かれている命の木





あらかじめ描かれた
図柄に従って
ガラスを切る職人。

スチンドラーストム・ホルドマン作、写真/フロイド・ホルドマン、トム・ホルドマン（撮影されたものは除く、本記事の補綴内装および外観写真の複製・複写は固くお断りします。

右上——セゴユリと
「生ける水の源」

(1ニーファイ11:25)
の一部。

右下——ロビーと
バプテスマ室を仕切る壁
の一部として取り付けら
れた窓。

右ページ——大空に
広がる星座を表す
ステンドグラス。
教会が組織された
1830年4月6日に
見えた北極星と北斗七星
も含まれている。

独りで家族の世話をしなければなりません
でした。

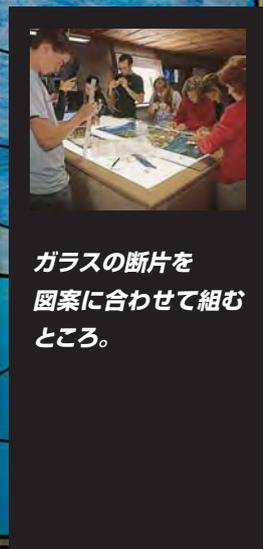
ウィルフォード・ウッドラフ大管長
(1807-1898年)は、この冬の状況を次のよ
うに記しています。「聖徒たちがこれほど大
きな^{かんなん}艱難に遭い、これほど速く衰弱してい
くのを見たことがない。」¹

今日の末日聖徒にとって、この地と、この
地^{いけい}で多大な犠牲を払った開拓者たちは、畏敬
の対象です。この地には、開拓者の犠牲の記
念碑とも呼ぶべき開拓者墓地があり、その隣
には、ネブラスカ州ウィンタークォーターズ
神殿が建っています。この神殿は、まさに神
聖な地に建つ聖所なのです。

トム・ホールドマン作の芸術的なステンド
グラスが、この神殿の神聖さを強調していま



写真/©2001 INTELLECTUAL RESERVE, INC.



ガラスの断片を
図案に合わせて組む
ところ。

右——走行距離計が描かれているこの絵を含め、2階の待合室(下)の窓には、開拓者の様子を描いたステンドグラスが12枚飾られている。

す。金色の天使モロナイ像の下に明るく輝く6枚のステンドグラスは、その一例です。この6枚のうち、上の3枚は天を表しています(11ページ参照)。各パネルには羅針盤が描かれており、それぞれの羅針盤の中心には星と月とがあり、星の栄えの王国と月の栄えの王国を表しています。羅針盤の外輪に達している太陽光線は、日の栄えの王国を表すものです。下の3枚には川と、波のようにうねる丘と、野の花とが描かれています。

長方形やひし形の模様がこの6枚のパネルを縁取っています。長方形はパッチワークの丸太小屋模様で、ウィンタークォーターズを築いた開拓者たちを思い起こさせます。ひし形の模様は、ウィンタークォーターズが築かれる前からその地に定住していたインディア





細長い、溝の入った鉛線を用いてガラス同士をつなぐ。

右上——オリーブの枝を描いたステンドグラスの一部。

右下——モルモン街道沿いに生息するアキノキリンソウ、セゴユリ、その他の野の花をあしらったステンドグラスの一部。

右ページ——神殿のバプテスマフォント。

ン、オマハ族の文化を思わせませす。

神殿中の至る所には、「まことのぶどうの木」(ヨハネ15:1参照)と「生ける水」(ヨハネ4:10参照)をかたどったステンドグラスが配置されていますが、それはまさに神殿の目的にかなっています。なぜなら神殿は主の宮であって、末日聖徒が永遠の聖約を交わす場所だからです。聖徒たちがなぜ「キリストのもとに来」るのかといえば(モロナイ10:30)、主が「世の命であり光であ[られる]」からなのです(教義と聖約11:28)。

この歴史的な地に建ち、多数の象徴的なステンドグラスを施したウィンタークォーターズ神殿の壁の内側では、主の民が救い主を礼拝しています。——歴史の断片と光のかげらに囲まれながら。■

注

1. Wilford Woodruff Journals, 1846年11月17-21日, 家族・教会歴史部記録保管庫





細長い鉛線が
ハンダで接合され、
1枚のステンドグラ
スが出来上がる。

信仰をた



十二使徒定員会
ジョセフ・B・ワースリン

**わたしたちは皆、神の王国で
仕えることができます。**

1846年、1万人以上の人々が、ミシシッピ川沿いに築かれたあの繁栄した町ノーブーを後にしました。初期の教会員は、預言者である指導者たちを信じ、「美しい町」を離れてアメリカ最果ての地である荒野へと足を踏み入れたのです。聖徒たちはその行き先をはっきりとは知りませんでした。どのくらいの距離を行くのかも、どれほどの期間を旅するのも、将来どうなるのかも分かりませんでした。しかし聖徒たちは、主と主の僕たちに導かれているという確信しんぴんがあったのです。信仰が彼らを支えました。彼らは「まだ見ていない真実のこと」を待ち望んでいました（アルマ32：21）。いにしへのニーファイのように「前もって自分のなすべきことを知らないまま、御霊みたまに導かれて行った」のです（1ニーファイ4：6）。

暴徒は1844年6月27日、預言者ジョセフと兄ハイラムの命を奪いました。1845年の9月、当時十二使徒定員会会長として教会を導いていたブリガム・ヤングは、暴徒の攻撃が増すのを恐れて、翌年の春には聖徒たちを引き連れてノーブーを脱出すると発表しました。ブリガム・ヤングからこの発表を聞いたとき、ノーブーに住んでいた大半の人々はその言葉を心から

信じました。それが主の御心みこころであると信じたのです。彼らは信仰を行使して、主の指示に従いました。1845年から1846年にかけての秋と冬、教会員は懸命に旅の準備をしました。

ニューエル・ナイトの妻リディアは、ノーブーを離れることになったこと、つまりまたもや聖徒が移動しなければならなくなったことを夫から聞いたとき、確固とした信仰をもってこう答えました。「何も話し合う必要はありません。わたしたちの住むべき所は神の王国なのですから。すぐに出発の準備をしましょう。」¹ ニューヨークからオハイオへ、次いでミズーリへ、さらにイリノイへと、多くの聖徒がすでに何度も移動を経験していました。ナイト兄弟もその度に家族とともに移動を繰り返してきたのです。リディア・ナイトは、神の御心だと確信したことに対して、献身的で従順でした。彼女のこのような姿勢は、初期の勇敢な聖徒たちの信仰を如実に表しています。

「美しい町」を離れ

暴徒からの攻撃の可能性が高まり、政府が介入するといううわさも広まったため、ヤング会長は、寒さが和らぐのを待たずに聖徒たちを脱出させざるを得ませんでした。1846年2月4日に、ヤング会長は第一陣の開拓者の家族にノーブーを出るよう指示しました。冬の



開拓者、ブリガム・ヤング、ノーブー神殿の絵／ラリー・ウィンボク

教会は世界中で
目覚ましく発展して
います。そのため、
わたしたちは
予見された神の王国
の栄えある将来像に
心を奪われがちです。
しかし明るい希望を
もって将来を
展望するときに、
立ち止まって、
謙遜な開拓者の
信仰に目を向ける
ことも必要です。

どって





回復された 完全な福音 の知識と

いう祝福に

あずかっている

わたしたちは、

前を歩いた人々に

感謝しなくては

ならない立場に

あります。

この先駆者たちは、

神の王国を

築き上げるために

計り知れないほど

多くのものを

ささげてきました。

彼らの犠牲を通して、

今日神の王国は

世界中に確立されて

いるのです。

まさに

奇跡と言えます。

寒い日のことでした。これらの家族は、荷物を満載した荷馬車を駆り家畜を連れてパーリー通りを進み、渡し場で荷馬車を船に積んでアイオワへ渡ったのです。ミシシッピ川には氷の塊が流れ、荷馬車を載せた平底の船にぶつかって砕けました。しかし数週間後には、気温がさらに下がって川が凍ったおかげで、荷馬車は氷の上を渡り、もっと簡単に向こう岸に渡ることができるようになりました。

1996年3月の上旬、ワースリン姉妹とわたしはノーブーを訪問しました。とても寒い日でした。冷たい風に吹かれながら、大きなミシシッピ川を見詰めて立っていたとき、愛する町を後にした聖徒たちに対する深い感謝の念がわいてきました。どのようにして生き延びることができたのか不思議でなりません。不確実な将来にすべてを託し、すべてをなげうって出立した開拓者たちは、何と大きな犠牲を払ったことでしょうか。

「美しい町」を追われて、再び

帰れるという望みもなく、

川を越えるために荷馬

車を操りながらパー

リー通りを下っ

ていった開拓者の

目から多くの涙が

流れたのも不思議

ではありません。

ミシシッピ川を

渡った開拓者たち

は、西部のロッキ

ー山脈に向かう前に、

シュガー・クリークに一時

的にキャンプを張りました。

父母たちの信仰

1846年2月15日、アイオワの野営地でブリガム・ヤング会長が開拓者団に合流したとき、主は近代の「イスラエルの陣営」を組織するようとの啓示を与えられました。そして3月1日に、先発隊が西へ向かってアイオワ横断を開始しました。寒さ、雪、雨、ぬかるみ、病気、飢え、死といった苦難が、頑健な

開拓者を襲い、信仰を試しました。しかし開拓者たちは、指導者に従うと固く決心していました。いかなる犠牲を払っても、神の御心と信じたことを行う決意があったのです。信仰が試されました。非常に困難なときには、動揺する人々もいました。しかし決して屈することはありませんでした。多くの人々は、ノーブー神殿の儀式から得た確信に支えられたのです。

多くの姉妹たちにとって、道中の過酷な状況で出産することは、最も苦しい経験でした。エライザ・R・スノーはこう記しています。「〔開拓者が〕旅を進めていくにつれ、女性たちは今までに経験したことのない、ありとあらゆる状況の下で出産しました。嵐や吹雪の中、テントや荷馬車の中で出産した人もいます。」スノー姉妹は続けてこう記しています。「雨の中、出産する場所がなく、地面に何本

か棒を立て、棒と棒の間に毛布を

取り付けて壁とし、さらにそ

の上から木の皮をかぶせて

屋根にしたという話を

聞きました。心優しい

姉妹たちは皿を

持って立ち、滴る

雨を受け……たの

です。こうして、

まさに人としての

この人生を始めよ

うとする赤ん坊と

その母親を、降り

しきる雨から守ったの

でした。』²

これらの善良な姉妹たちは

何と大きな犠牲を払ったことでし

ょう。出産の際に命を失った母親もいました。

多くの赤ん坊が命を落としました。わたしの

妻の祖母、エリザベス・ライターも、ウィン

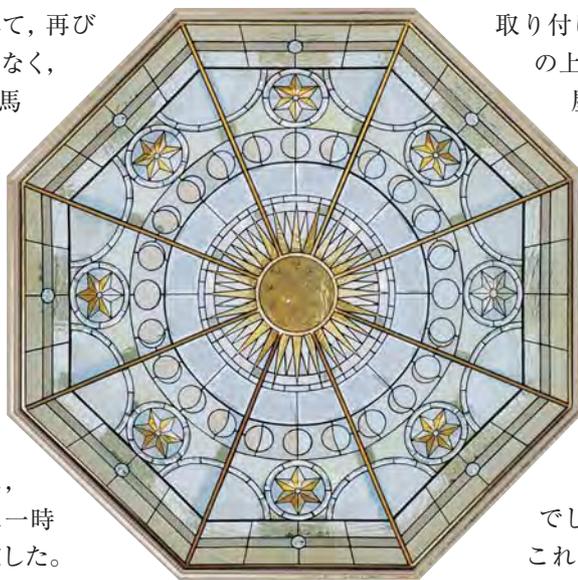
タークォーターズで生まれました。嵐の中、

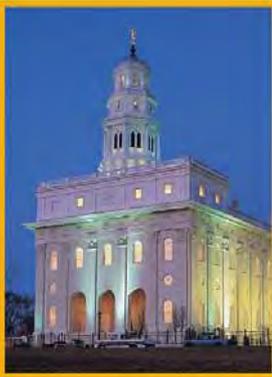
幌付き荷馬車で生まれたのです。幸いにも、

母子ともに生き延びることができました。当

時の話をよくしてくれた義理の祖母エリザベ

スの言葉から、命を授けてくれた母親への愛





わ たしたちは
 開拓者の
 信仰の土台の
 上に栄えていくことが
 できます。
 忠実に仕えることで、
 神が用意しておられる
 祝福を受けるに
 ふさわしくなるのです。
 神の祝福は
 わたしたちの生活を
 豊かにし、
 より良いものと
 してくれます。

さに奇跡と言えます。先祖の恩に報いる「最良の方法は、この大いなる大義のために仕えることなのです。」³

平凡な人々

だれであろうと、才能、能力、経済力、教育、経験にかかわらず、すべての人は神の王国で奉仕することができます。謙遜、祈り、勤勉、信仰をもって奉仕するならば、わたしたちを召された主は、わたしたちをその召しにふさわしい者にしてください。自分はふさわしくないと感じる人もいるでしょう。また、主にささげられるものがほんのわずかしかないため、自信が持てない人もいるでしょう。しかし主はわたしたちが不完全な状態にあることをよく知っておられます。弱さを御存じなのです。毎日の生活で直面する問題もよく理解していらっしゃいます。使徒パウロはヘブル人への手紙の中でこう述べました。救い主は「わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。」なぜなら主は「わたしたちと同じように試練に会われた」からです（ヘブル4：15-16）。

トーマス・S・モンソン第一副管長は、この偉大な大義のために進んで奉仕することの重要性を次のように教えています。「わたしたちは十分に、御霊に波長を合わせているでしょうか。主に名を呼ばれたときに、サムエルのようにその声を聞き、『ここにおります』と答えることができるでしょうか。どのような召しを受けても、勇気と固い決心をもって奉仕する、不屈の精神と信仰を持っているでしょうか。それがあれば、主はわたしたちを通して力強い奇跡を起こすことができになるのです。」⁴（サムエル上3：4参照）

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長は、わたしたちの能力にかかわらず、神は忠実な働きを受け入れてくださり、さらに、御自分が用意しておられる大いなる祝福を受ける資格を与えて

くださる、と断言しました。その祝福は生活を豊かにし、より良いものとしてくれます。ファウスト副管長はこう説明しています。「この教会は必ずしも偉大な人々を引き寄せるためにあるわけではなく、むしろ、平凡な人々がこの教会によって偉大な者となることの方が多いのです。……

この教会が、設立当初の小さな状態から今日の力を得るまでに発展したのは、謙遜で忠実な大勢の〔会員たち〕の忠誠心と献身があったからです。彼らは5つしか持っていないパンと2匹しかない小さな魚を主の業にささげたのです。」⁵

教会は世界中で目覚ましく発展しています。そのため、わたしたちは予見された神の王国の栄えある将来像に心を奪われがちです。しかし明るい希望をもって将来を展望すると同時に、立ち止まって、謙遜な開拓者の信仰に目を向けることも必要です。開拓者の信仰は教会の土台となり、教会はその土台の上にもこれからも栄え続けるのです。

能力の限りを尽くして主の業に献身しようではありませんか。この偉大な大義の中で、忠実に働くことにより、いにしへの聖徒の信仰をたたえ、敬うことができますように。預言者に従うことで「キリストのもとに来て神の慈しみにあずかる」ことができますように（モルモン書ヤコブ1：7）。■

この話は、1996年4月の総大会の説教を基に書かれました。

注

1. R・スコット・ロイド, “Commemorating 1846 Exodus,” *Church News*, 1996年2月10日付, 3で引用。
2. B・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of the Church*, 第3巻, 45で引用。
3. ジョセフ・L・ワースリン, *A Heritage of Faith*, リチャード・ビトナー・ワースリン編 (1964年), 47
4. 「行動する神権者」『聖徒の道』1993年1月号, 55参照
5. 「5つのパンと2匹の魚」『聖徒の道』1994年4月号, 6参照



心を尽くして
神を愛しなさい



あなたがささげる物はわずかかもしれませんが。
でも、すべてをささげているのなら、それで十分なのです。

(マルコ12:41-44参照)

締め出されて

ミッシェル・トリー

わたしは惨めにも、ステーキセンターの外に独りぼつんと取り残されてしまいました。わたし以外、家族も友達も皆、中に入っています。もっとしっかり準備しておくべきだったのです。

二 ユーヨーク州パルマイラ神殿の奉献式がステーキセンターで中継放送されるという話題で、ステーキは持ち切りでした。ステーキの会員たちは期待に胸をふくらませていました。わたしも奉献式の放送は楽しみでしたが、チケットをもらうのを何となく先延ばしにしていました。

奉献式の当日になってやっと副監督に話し、チケットを手に入れました。副監督からチケットを手渡されると、わたしはそれを見ることもなくハンドバッグに入れました。聖餐会せいさんで奉献式について何か発表がありました。もうすでにチケットを持っていたので、よく聞いていませんでした。

その日、家に帰ると、奉献式のことも忘れてあれこれと忙しくしていましたが、あと15分ほどで奉献式が始まるというときになって、さあそろそろ行かなくてはと腰を上げました。白いハンカチをハンドバッグに入れ、チケットが先ほど入れたところにあるかどうか、もう一度確認もしました。準備万端です。

家族は、早く来るようわたしに言い残し、いい席を取るため先に出かけていました。わたしも一緒に行きたかったのですが、支度ができていなかったため、後から一人で行くことにしたのです。

教会の駐車場に車を入れましたが、ほぼ満車だったことに驚きました。車はあふれるほどあるのに、人は見当たりません。わたしは最

初、遅刻でもしたのかと思い、ヒヤッとしました。でも腕時計を見ると、奉献式の開始までまだ5分あります。

階段を上って教会のドアを開けようとしたのですが、鍵がかかっていた。わたしはうろたえました。でも、ある決まったドアからだけ人を入れるのだとどこかで聞いたのを思い出し、それがどのドアなのかは分からなかった。ドアというドアを全部開けてみることにしました。教会の周りを回ってドアを引っ張り、ちょっとガタガタと動かし、いらいらしながら開けようとしたのですが、どのドアも開きませんでした。

残る最後のドアに歩み寄ったときには、胸がどきどきしました。そのドアを開けようとしたのですが、これにも鍵がかかっていた。ロビーをのぞいてみましたが、だれもいません。礼拝堂のドアは閉まっています。悲しいことに、皆、中に入ってしまったことに、ようやく気づきました。外にいて、中をのぞき込んでいるのはわたしだけだったのです。

ひどくがっかりして車に戻りましたが、歩きながら、もう一度奉献式の時間を確かめようと思いました。ハンドバッグの中を探してチケットを見つけ、時間は間違えていないことを確認しました。自分は締め出されたのだと思うと、怒りが込み上げてきました。どうして入れないの？ こんな歴史的な出来事に立ち会えないなんて！

チケットを裏返して驚きました。裏にも何か書いてあったのです。おや、と思って読んでみ





も っと怖いと
思ったのは、
霊的な備えが
できていないために、
天の御父と
家族のもとから
永遠に締め出されて
しまうことでした。



ると、奉献式開始の30分前には着席していること、という指示がはっきりと印刷してありました。

なぜもっと早くこれを読まなかったのかしら。わたしはチケットの裏面を読んでいませんでした。受け取るとすぐ、バッグにしまい込んでしまったのですから。ごく簡単な準備ができていなかったのです。車に戻って腰を下ろすと、悲しみのあまり動くこともできませんでした。自分は、10人のおとめのたとえに出てくる5人の愚かなおとめのような者だと感じました。ランプの油が切れていたため、婚礼の席に着けずに外に取り残されてしまったのです。ほかの5人は花婿とともに、中で席に着いているというのに。

マタイによる福音書第25章に出てくるこの話を読む度に、5人のおとめのことを何て愚かなのだらう、と思ってきました。油をたっぷりと買っておくことなど簡単だと思えたのです。油とランプがわたしたちの証と聖なる御霊の導きを指すことは知っていました(教義と聖約45:57参照)。神殿の奉献式に出席する準備ができていると思っていたのに、わたしは今、礼拝堂で預言者の言葉を聴いてはいません。

独りぼつんと駐車場に残されたわたしは、気がつきました。チケットを持っているだけでは十分ではないのです。キリストが来られる日、その場にいるだけでは不十分です。あらゆる点で準備をし、常にランプを油で満たしていなければなりません。油はたっぷりある、と思っているだけではだめなのです。

家に向かって車を走らせながら、涙が止まりませんでした。わたしだけ、というのはつらいことでした。友達も家族も礼拝堂の中で霊を鼓舞されているというのに、一緒に出席できなかったのですから。わたしは決意しました。これからは油が十分にあるよう、できる限りのことをして備えようと。準備ができず外に取り残されてしまう人の中に数えられるのではなく、喜ばしい婚礼の席に着きたいのです。

ミッシェル・トーリーはカリフォルニア州コロナステーク、エルセリトワードの会員です。

誘惑と戦う備え

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

永遠の見地から考えることは、誘惑と戦ううえでどのような助けとなるでしょうか

アルマ書第34章39節——「悪魔の誘惑に惑わされることなく、悪魔に打ち負かされることなく、終わりの日に悪魔の手下になることのないように、絶えず祈りに心を配〔りなさい。〕見よ、悪魔はあなたがたに決して良いものを報いとして与えないからである。」

大管長 ハワード・W・ハンター (1907-1995年)——「誘惑や病氣、苦痛、悲しみがなければ、善も徳も、幸福や喜びに対する感謝もありません。反対の法則があるからこそ自由に選べるようになるのです。天の御父は子供たちにこう命じておられます。『あなたがたは今日、あなたがたを造られた主なる神に仕えることを選びなさい。』(モーセ6:33) 神はわたしたちに、御霊に従い、誘惑に打ち勝つよう教えておられます。」「(「神は人々を試される」『聖徒の道』1980年9月号, 36参照)

中央初等協会会長 コリーン・K・メンラブ——「教会の中にも幸せではない人や、普段は幸せでも精神的な圧迫や、心配事、試練、落胆などを時々経験している人たちがいます。これも偉大な

幸福の計画の一部なのです。死すべき状態とは試験と試練のときであり、わたしたちが苦痛やつらい気持ちを味わうときに必ずあるということなのです。しかし、永遠の計画を根気よく信じ続けることにより、わたしたちは日々幸せを経験し、「いつまでも続く幸福」を得られるという希望を持つことができます。」「(「いつまでも幸せに暮らす」『リアホナ』2000年7月号, 14)

どうしたら誘惑と戦う備えができるでしょうか

マタイによる福音書第26章41節——「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。」

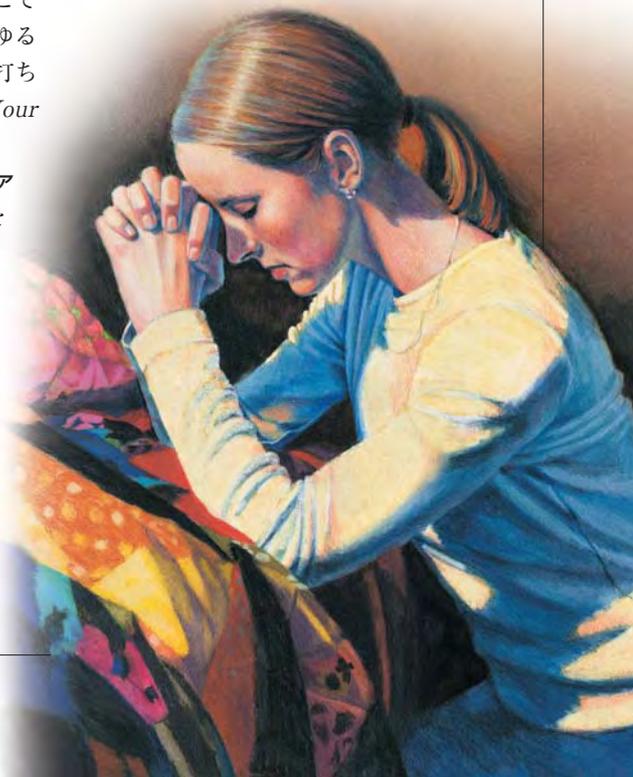
第一副管長 トーマス・S・モンソン——「神殿を愛し、神殿で喜びを見いだし、神殿に参入するにつれて、わたしたちの生活は信仰を映すものとなります。神の聖なる宮を訪れるとき、またそこで交わした聖約を思い出すとき、あらゆる試練を堪え忍び、一つ一つの誘惑に打ち勝てるようになるのです。」「(Be Your Best Self [1979年], 56)

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト——「サタン力を恐れて身をすくめる必要はありません。わたしたちが許さないかぎり、彼はわたしたちに対して何の力も持つことができないのです。彼は実際にはおく病者であり、もしわたしたちが確固とした態度を執るならば、退いていきます。」「(「大いなる偽り者」『聖徒の道』1988年1月号, 39参照)

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット——「正義を選ぶと固く決意し、個人の標準を確立してそれらを守ると聖約し、誘惑に遭ったときにも自分の標準に従って行動するならば、あなたは強められ、必要なときに自分の能力以上の力が与えられることに気づくでしょう。はっきりとした計画を持たないまま誘惑との戦いに飛び込んで行くときに、難しい状況に立たされるのです。」「(「正しかれ」『リアホナ』2001年3月号, 14)

誘惑に負けそうなとき、どうすればよいでしょうか

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「時にはつまずくこともあります。わたしは、悔い改めと救しという偉大な原則について主に感謝しています。ボールを落とすような失敗をしたり、間違いを犯したりした者に対し、主は、その過ちや罪を赦し『もうそれを思い起こさない』という慰めとなる言葉を述べておられます。」「(「ボールを落とさないように」『聖徒の道』1995年1月号, 56) ■



霊界を訪れられた 救い主



七十人
スペンサー・J・コンディー

イエスはその死と復活の間に
なされたことは、神殿建設に
教義上の意義を与えるものです。

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」(ルカ23:46) イエスが十字架上でこう言われた後、主の不死の霊は肉の体を離れました。命がなくなった主の体は墓に横たえられ、入り口は石でふさがれました。

しばらくして、墓に集まっていた女性たちに向かい、天使たちがこう宣言しました。「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」(ルカ24:6) イエスの霊は再び体に戻り、二度と分離することのない栄光に満ちた霊と肉体の結合体となったのです。

イエスの死と復活の事実は、キリスト教各派で基本的な教義として認められています。しかし、その死から復活されるまでイエスの不死の霊が何をしておられたかについては、末日聖徒を除くすべての人々にはなぞとなっています。この間にイエスが執られた行動の重要性は、世界中で進められている神殿建設に教義上の意義を与えるものです。さらに、主がなされたことへの証は、愛する者の死を悲しむ人にとって大きな慰めとなることでしょう。

救い主は
霊界にいる忠実な霊に
御姿を現し、
「永遠の福音と
復活の教義、堕落からの
人類の贖い、および
悔い改めを条件とする
個人の罪からの贖い
について」
の
宣べ伝えられたのです。

バプテスマの必要性

イエスが死後霊界を訪れられた理由を理解するには、エルサレムにおける最初の宮清めの日の夜にさかのぼる必要があります。「ユダヤ人の指導者」という高い地位にあったニコデモは、深く関心のある事柄について話し合おうと、救い主のもとにやって来ました。ニコデモは主を「神からこられた教師」とであると認めていました。イエスは彼に教えて言われました。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:1-2, 5)

このように、神の王国に入りたいと願う人は、バプテスマを受ける必要があるのです。この地上で唯一罪のない御方であったイエス・キリストでさえ、全人類に設けられたこの条件に従われました(2ニーファイ31:5-7参照)。¹

バプテスマを受けていない人に対する憐れみと正義

主の救いの計画は様々な呼び名で知られています。その一つが「憐れみの計画」です(アルマ42:15)。憐れみは、思いやりと救いを意味し、一方正義は、罰と報いを表していると言えます。しかし神の正義には、公正や公平など、より穏やかな特質もあります。

責任能力を持つあらゆる人がバプテスマを受ける必要がある一方で、福音を聞きバプテスマを受けるかどうか、選択する機会もないまま亡くなった人々が何十億といます。この





世の救い主が
十字架に
おかかりに
なったとき、
「地がうめき、もろもろ
の岩が裂け」ました。
そして復活の時に、
「聖徒たちが
よみがえって、
人の子の右において
栄光の冠を受け」た
のです。

ような状況で、どうして主の計画が憐れみ深く、公平であると言えるのでしょうか。使徒ペテロは神が用意された方法を次のように説明しています。「キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々〔わたしたち〕のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。」(1ペテロ3:18)キリストがこのようなにさったのは、永遠の命という賜物をすべての人々に与えるためでした。

使徒ペテロは続けてこう言っています。「こうして、彼〔イエス・キリスト〕は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。」(1ペテロ3:19)

霊界にいる人々とはだれのことでしょうか。この世の生涯を終えた義人と悪人です。ノアの時代に不従順であったり、福音を拒んだりした人々や(ジョセフ・スミス訳1ペテロ3:20参照)、何千年も霊界にとどまっていた人たちもいます。

霊界で福音が宣べ伝えられたのはなぜでしょうか。それは、死者が悔い改めて神の御心に従って生きようになるためです(ジョセ

フ・スミス訳1ペテロ4:6参照)。憐れみと正義が成立するためには、肉において福音を聞く機会がないまま世を去った人たちが、霊界でその機会を得る必要があるのです。また、この世で福音を拒んだ人たちが、もう一度福音を聞く機会を得ることも必要です。

従順な人たちはどうなるのでしょうか。イエス・キリストの福音を受け入れて、従った人たちも同じように霊界に住みます。預言者エノクは、世の救い主が十字架におかかりになり「地がうめき、もろもろの岩が裂け」るのを予見しました。また、イエス・キリストの復活に伴い、「聖徒たちがよみがえって、人の子の右において栄光の冠を受け」るのを見たのです。霊界の従順な者たちは、栄光ある復活体となって出て来ました。そして「残りの者〔邪悪な者〕は、大いなる日の裁きまで暗闇の鎖につながれていた」のです(モーセ7:56-57)。このように、従順な人たちは霊界に行き、自らが復活する日を待つのです。

預言者アルマは、忠実な者たちは待っている間、「パラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる

る不安と憂いを離れて休む」と教えました(アルマ40：12)。

主の訪れによる劇的な変化

救い主が霊界を訪られたことで、従順な者たちはすばらしい恵みを受けました。そのことは、ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)が受けた示現に見ることができます。スミス大管長は、救い主がおいでになる直前の霊界を見ました。従順な者たちの霊は、「一つの場所に集ま[り]」、「喜びと楽しみに満たされ、解放の日が近づいたので、ともに喜んでい」ました(教義と聖約138：12, 15)。

救い主は彼らに^{みすがた}御姿を現し、栄光ある復活の日が来たことを宣言なさいました。主は「永遠の福音と復活の教義、墮落からの人類の^{あがな}贖い、および悔い改めを条件とする個人の罪からの贖いについて」^{あがな}宣べ伝えられたのです(教義と聖約138：19)。

そこに集まっていた人々の中には、アダム、エバ、ノア、そしてアブラハムがいました。モルモン書の預言者たちも群衆に交じっていました。「この預言者たちを主は教え、彼らに力を与えて、彼らが、主が死者の中から復活された後に出て来て、御父の王国に入[る]」ようにされました(教義と聖約138：51)。

ジョセフ・F・スミス大管長は、救い主が死と復活の間という短い時間に、どのようにして霊界にいるすべての人に福音を宣べ伝えることがおできになったのか分かりませんでした。しかし、次のことを理解したのです。「悪人のところへは、御子は行かれなかった。また、神を敬わない者……の中では、御子の声は発せられ[なかった。]……

見よ、主は義人の中から軍勢を組織し、力と権能をまとった使者たちを任じて、……束縛されている囚われ人、すなわち、自分の罪を悔い改めて福音を受け入れるすべての人に自由を宣言するために出て行[かせられた。]

このようにして、真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者に、福音が宣べ伝えられた。」(教義と聖約138：20, 30-32)

バプテスマを受けていない死者に福音を伝える業は、^{こんにち}今日も続けられています。バプテスマを受けることなくこの世を去った人々に、救い主は現在も使者を急派されています。これらの使者の中には、この神権時代に亡くなった忠実な教会員がいるのです。忠実な人々は「死すべき世を去っても彼らの働きを続け、死者の霊たちの大いなる世界において暗闇と罪の束縛の下にいる者たちの間で、悔い改

めと神の独り子の犠牲による贖いの福音を宣べ伝えている」のです(教義と聖約138：57)。

死者のための業

しかし、神の憐れみと正義の計画が成就するためには、まだ答えの出ていない重大な問題が一つ残っています。どうすれば亡くなった人がバプテスマを受けられるのでしょうか。この難問も、聖なる神殿の中でのみ行われる死者のためのバプテスマという儀式によって解決します。わたしたちは、ふさわしいならば神殿に行き、死者の代わりにバプテスマの儀式を受けることができるのです。

死者のためのバプテスマは、ペテロやパウロの時代に聖徒の間で行われていました。使徒パウロは、イエス・キリストと死者の復活についてコリント人に教えていたときに次のように問いかけています。「そうでないとなれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらなるとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」(1コリント15：29)

バプテスマをはじめとする死者のための神聖な儀式は、預言者ジョセフ・スミスを通して地上に回復され、現在、世界中にある100以上の神殿で執行されています。これらの神殿は、死者の業が今も地上と霊界の双方で確かに行われているという証を世界に表明しています。この業は、救い主が世を去った義人の霊を訪れられたことで始まったのです。



わ たしたちは
神殿に行き、
亡くなった
一人一人に代わって
バプテスマの儀式を
受けることが
できます。



一般的な質問

死者のための儀式に関する教義は、教会外で、また時として末日聖徒の間でも疑問を引き起こしています。以下は、一般的な質問への答えです。

亡くなった人が、悔い改めやバプテスマの祝福を望まないうときはどうなるのですか。わたしたちは、すべての人に選択の自由があると信じています。それはこの世においても霊界においても同じです。この自由は天の御父の計画には欠かせないものです。だれかが本人に代わって行った儀式を受け入れるよう強制されることはないのです。死者のためのバプテスマは機会を与えるものであって、人の選択の自由を無効にするものではありません。しかし、もしこの儀式が行われなければ、死者はバプテスマを受け入れることも、拒むこともできなくなるのです。

地上にいる間、神の戒めを守ろうとする態度をほとんど見せなかった人のためにどうしてバプテスマをするのですか。わたしたちは、多くの人がアミュレクのようなと信じています。アミュレクはかつて自分自身のことをこう言いました。「わたしは、心をかたくなにした。幾度となく呼ばれたが、わたしは聞こうとしなかった。だからわたしは、これらのこと〔イエス・キリストの福音〕について知っていながら、知りたいと思わなかった。」(アルマ10：6)後にアミュレクは、民にとって偉大な宣教師、また教師となりました。

モルモン書には、義にかなったレーマン人たちが、ひときわかたくななガデアントンの強盗団を探し出した時期がありました。「〔レーマン人たちは〕ガデアントンの強盗団を捜し、強盗団の中のひときわ悪い者たちの中で神の言葉を宣べ伝えたので、この強盗団はレーマン人の中から完全に絶えてしまった」のです(ヒラマン6：37)。

死者の中でだれが主に立ち返って悔い改めるようになるのか、わたしたちには分かりません。わたしたちはそれを判断する立場にはないのです。わたしたちがすべきことは、この業を果たし、福音を受け入れるか否かについては死者本人と主にゆだねることです。

悲しんでいる人々に

救い主は、霊界にいる忠実な者たちを訪れることを心待ちにしておられました。「死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。」(ヨハネ5：25)

主の訪れにより、霊界の死者へ福音を宣べ伝える業が整えられました。パラダイスと呼ばれる幸福で平安な状態にある間、従順だった死者は「満ちみちる喜び」を受けるのを待つのです(教義と聖約138：17。アルマ40：12も参照)。彼らは福音を伝える召しに励むのです。

肉において福音を聞く機会がなかったり福音を拒絶したりした死者は、暗闇の中、すなわち惨めな状態にあります(教義と聖約138：2；アルマ40：14参照)。しかし、主が訪れられたことで、彼らの救いに対しても希望が持てるのです。わたしたちは神殿に行って鍵を回し、天国の門を開くことができます。それは死者のために、また自らの奉仕によって自分自身のためにも行っているのです。「わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないと言っているように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはない」ことを知っているからです(教義と聖約128：15)。憐れみと正義が一つになって、天の御父のすべての子供たちに御父のもとへ帰る機会が与えられるのです。■

話し合みましょう

1. 救い主の絵を見せ、イエスがその死と復活の間どこへ行かれ、何をなさったか尋ねてください。この記事を読んで答えを探します。「一般的な質問」の項について話し合みましょう。

2. イエスの訪れを受けたことで、霊界はどのように変化したか家族に尋ねます。わたしたちは、霊の獄にいる人々をどのように助けることができるのでしょうか。「悲しんでいる人々に」の項を読み、今も霊界で行われている業について証をしてください。

注

1. すべての人に要求されているバプテスマが免除されるのは、幼い子供と、精神的な障害のために責任能力を問われない成人です。彼らは、「幼児の状態で、……神の前に罪のない者」だからです(教義と聖約93：38)。預言者モルモンはこう教えました。「あなたがたは責任を負うことができ、罪を犯す可能性のある者に、このこと、すなわち悔い改めとバプテスマについて教えなさい。……幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない。」(モロナイ8：10-11)

ペテロとほかの使徒たち



19 20 23 24 30



1回目の伝道旅行

2回目の伝道旅行

3回目の伝道旅行

パウロ(サウロ)の生涯



その他

25 31 33 35 40 43 47 52

書簡(手紙)

38 44 51 53 55 57

モルモン書

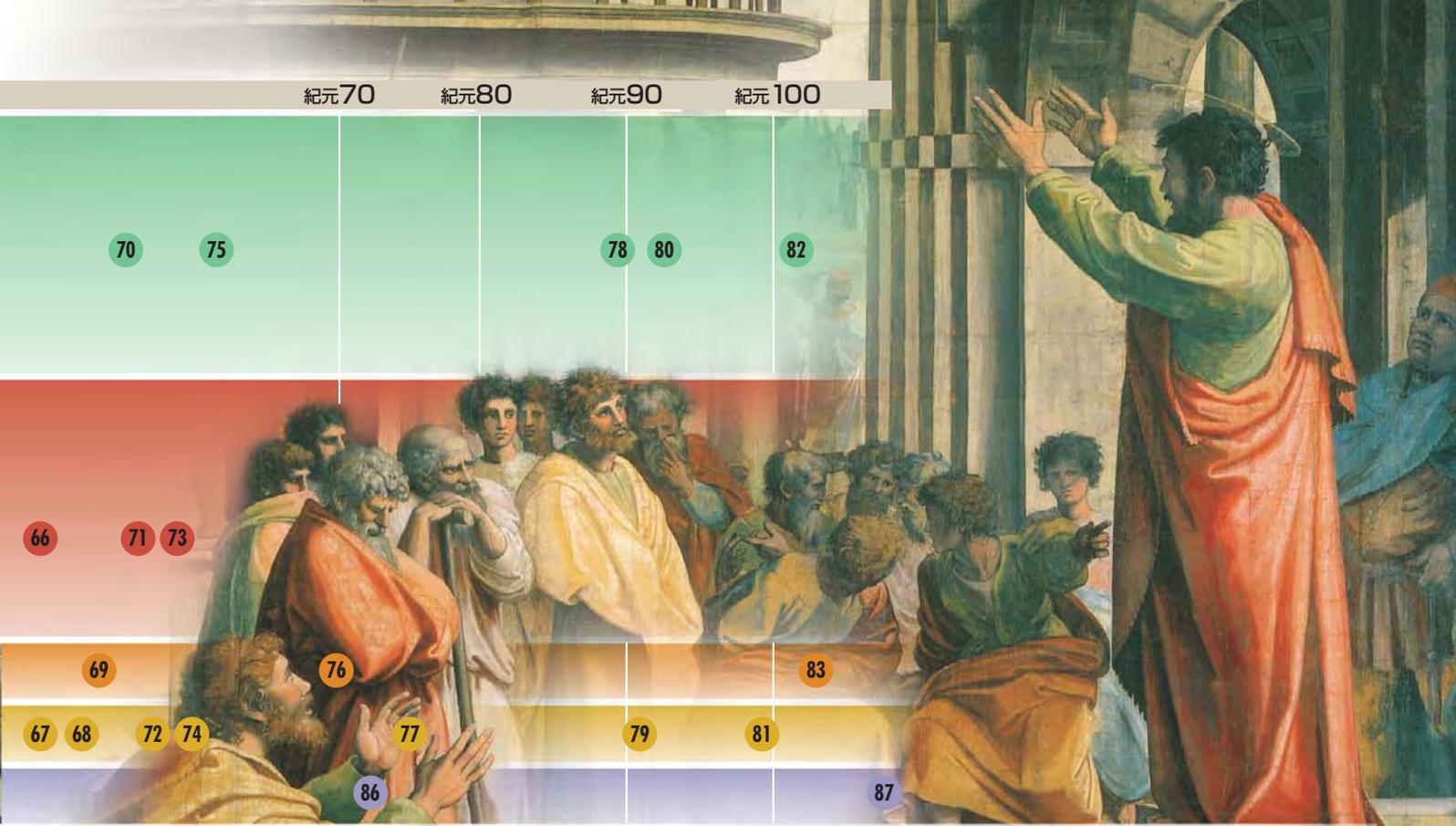


左から「1ペテロ」「2ペテロ」「3ペテロ」「4ペテロ」「5ペテロ」「6ペテロ」「7ペテロ」「8ペテロ」「9ペテロ」「10ペテロ」「11ペテロ」「12ペテロ」「13ペテロ」「14ペテロ」「15ペテロ」「16ペテロ」「17ペテロ」「18ペテロ」「19ペテロ」「20ペテロ」「21ペテロ」「22ペテロ」「23ペテロ」「24ペテロ」「25ペテロ」「26ペテロ」「27ペテロ」「28ペテロ」「29ペテロ」「30ペテロ」「31ペテロ」「32ペテロ」「33ペテロ」「34ペテロ」「35ペテロ」「36ペテロ」「37ペテロ」「38ペテロ」「39ペテロ」「40ペテロ」「41ペテロ」「42ペテロ」「43ペテロ」「44ペテロ」「45ペテロ」「46ペテロ」「47ペテロ」「48ペテロ」「49ペテロ」「50ペテロ」「51ペテロ」「52ペテロ」「53ペテロ」「54ペテロ」「55ペテロ」「56ペテロ」「57ペテロ」「58ペテロ」「59ペテロ」「60ペテロ」「61ペテロ」「62ペテロ」「63ペテロ」「64ペテロ」

- 17.使徒9:27 バルナバが悔い改めたサウロを使徒たちの前で弁護した。
- 18.使徒9:29-30;ガラテヤ1:21-24 サウロはタルソへ行き、シリアとキリキヤで約4年間福音を宣べ伝えた。
- 19.使徒9:31-43 ペテロはアイネヤを癒し、ドルカスを死から蘇生させた。
- 20.使徒10:1-11:18 示現の中で、ペテロは異邦人にも福音を宣べ伝えるよう命じられた。聖霊がコルネリオとその家族に下られた。彼らはバプテスマを受けた。
- 21.使徒11:25-26 サウロは1年の間アンテオケの教会で務めを果たすバルナバを助けた。
- 22.使徒11:29-30 サウロとバルナバはエルサレムの貧しい聖徒たちのためにアンテオケの聖徒からの救援物資を運んだ。
- 23.使徒12:1-2 使徒ヤコブは、王ヘロデ・アグリッパ1世によって、打ち首にされた。
- 24.使徒12:3-23 ペテロは投獄されたが、主の天使の助けで解放された。ヘロデは天使に打たれて、死んだ。
- 25.使徒12:25 バルナバ、マルコ、サウロはアンテオケに戻った。
- 26.使徒13:1-12 サウロは、バルナバ、マルコとともにキプロスへ行き、福音を宣べ伝えた。サウロは、今やパウロとも呼ばれ、最初の伝道旅行を開始した。
- 27.使徒13:13-14:6 パウロはベルガ、ピシディアのアンテオケ、イコニウムを訪れ、異邦人にバプテスマを施すことにおいて大きな成功を取めた。
- 28.使徒14:6-19 ルステラでパウロは足の不自由な男を癒した。市民はパウロとバルナバを神と思い込んだ。パウロは後に石で打たれ、町から追放された。

- 29.使徒14:20-15:3 デルベで大きな成功を収めた後、パウロはアンテオケへ戻り、幾つかの町に立ち寄って会員を強めた。
- 30.使徒15:4-29;ガラテヤ2:1-3 ペテロはエルサレムで教会の指導者から成る評議会を管理した。そこでふさわしい会員となるために異邦人がしなければならない事柄について決定が下された。パウロ、バルナバ、テトスも出席した。
- 31.使徒15:30-35 ユダ、シラスとともにパウロ、バルナバはアンテオケに戻った。エルサレムで開かれた会議での決定は大きな喜びをもって受け入れられた。
- 32.使徒15:36-40 パウロは、同僚のシラスとともに、2回目の伝道旅行を開始した。
- 33.使徒16:1-3 ルステラで教会に加わったテモテがパウロ、シラスの同僚となった。
- 34.使徒16:8-11 パウロ一行はトロアスへと旅を続けたが、そこで同僚とともにマケドニアへ行くようにという示現を受けた。
- 35.使徒16:10-11 ルカがパウロとその同僚たちに合流した。
- 36.使徒16:12-15 ビリビでルデヤとその家族が主に帰依した。
- 37.使徒16:16-40 ビリビでパウロとシラスは鞭で打たれ、獄に入れられた。大地震のために獄の土台が揺れ動いた。獄吏とその家族はバプテスマを受けた。パウロとシラスは獄から解放された。
- 38.ヤコブの手紙 エルサレムの教会の指導者であるヤコブは「離散している十二部族の人々へ」手紙を書いた(1:1)。この書簡は中央の指導者から送られた最初のものだったかもしれない。
- 39.使徒17:1 パウロとその同僚たちはアムビポリス、アポロニヤ、テサロニケを旅した。

- 40.使徒17:2-9 テサロニケで、ヤソン、パウロの親族、その他の人々がキリストを信じた。暴徒がヤソンを捕らえた。パウロとその同僚たちは逃亡した。
- 41.使徒17:15-34 パウロはベレヤでシラス、テモテに別れを告げ、アテネへと旅した。パウロはアレオパゴスの評議所で数人のギリシヤ人の哲学者たちに教えを説いた。
- 42.使徒18:1-3, 5, 11 パウロはコリントでシラス、テモテと再会した。パウロはそこで1年6か月の間教え、働いた。
- 43.使徒18:2-18 コリントで、アクラとその妻プリスキラ、ユスト、会堂司のクリスポがキリストを信じた。パウロは捕らえられ、ローマの総督の前に引き出された。
- 44.1テサロニケ;2テサロニケ コリントから、パウロは2通の手紙をテサロニケの聖徒たちに送った。
- 45.使徒18:18-21 パウロはエベソへと旅し、会堂で教えを説いた。
- 46.使徒18:21-22 パウロはエルサレムへ行き、そこで教会にあいさつしてからアンテオケに戻った。
- 47.使徒18:24-28 エジプト生まれのユダヤ人、アポロはエベソへやって来て、アクラとプリスキラから教えを受けた。
- 48.使徒18:23;19:1 パウロはガラテヤ、フルギヤの教会を歴訪し強めた。パウロはエベソに約3年滞在した。
- 49.使徒19:1-7 パウロはアポロがバプテスマを施した弟子たちに聖霊の賜物を授けた。
- 50.使徒19:11-20 パウロはエベソで数々の奇跡を行い、教会が発展した。
- 51.1コリント エベソ滞在中、パウロはコリントの聖徒たちに手紙を書いた。



70

75

78

80

82

66

71

73

69

76

83

67

68

72

74

77

79

81

86

87

52.使徒19:23-41 エベソで、ギリシヤの大女神アルテミスを礼拝する人々が町中の人を扇動してパウロやキリスト教徒に反対する騒動を起こさせた。ガイオとアリストアルコは暴徒に捕らえられたが、無傷で解放された。

53.2コリント マケドニア滞在中、パウロはコリントの聖徒たちに再び手紙を書いた。

54.使徒20:1-2 パウロはギリシヤへ行き、そこで3か月滞在した。

55.ガラテヤ パウロはガラテヤの聖徒たちに手紙を書いた。

56.使徒20:2-6 パウロと7人の同僚はギリシヤの町を歴訪し福音を宣べ伝えた。

57.ローマ パウロはローマの聖徒たちに手紙を書いた。

58.使徒20:6-12 トロアスでパウロはユテコという名の若者を生き返らせた。

59.使徒20:13-38 エベソへ行く途中、パウロはミレトに立ち寄り、聖徒たちに背教について警告を与えた。自分は五旬節のためにエルサレムへ行かなければならないと告げた。

60.使徒21:1-15 エルサレムへ行く途中、パウロはツロとカイザリヤの聖徒たちを訪問した。

61.使徒21:16-23:10 パウロはエルサレムで教会の指導者と会った。パウロが神殿に行ったことで、暴動が起きた。パウロはサドカイ人とパリサイ人に自分がキリストに帰依したいきさつについて語った。パウロはローマの兵士たちに捕らえられ、身の安全のためカイザリヤに連れて行かれた。

62.使徒23:11-26:32 パウロはローマの二人の総督、フェストとヘロデ・アグリッパ2世の前に出頭した。パウロは自分の改宗について語り、キリストについて証した。二人の総督は裁判のためにパウロをローマへ送ることにした。

63.使徒27:1-28:16 ローマの保護の下、パウロはローマへ船出した。船は難破し、パウロはマルタまで泳いだ。パウロは蛇にかまれたが何の害を被ることもなく、多くの人々を癒した。

64.使徒28:16-31 パウロはローマで2年間軟禁された。

65.エベソ;ピリピ;コロサイ;ピレモン;ヘブルローマでパウロはコロサイ、ピリピ、エベソの町に住む聖徒たちとピレモンという名の弟子に手紙を書いた。パウロはまたモーセの律法はキリストの律法によって成就したことをユダヤ人の会員たちに説明した。

66.1テモテ1:3;2テモテ4:13;テトス1:5;3:12 獄から解放されたパウロはギリシヤへと旅し、恐らく多くの町で聖徒たちを再訪した。スペインで福音を宣べ伝えた可能性もある。

67.1テモテ;テトス ギリシヤからパウロはテモテに最初の手紙を書いた。クレテにいるテトスにも手紙を書いた。

68.1ペテロ ペテロは恐らくローマから、教会へ手紙を書いた。

69.マルコ1:1;ルカ1:1-4;使徒1:1 マルコとルカは福音書を書いた。ルカは使徒行伝を書いた。

70.マタイ1:1 マタイは福音書を書いた。

71.2テモテ4:6 パウロは再び捕らえられ裁判のためローマへ送還された。

72.2テモテ パウロは再びテモテに手紙を書いた。これは、新約聖書でパウロの最後の手紙となった。

73.パウロは、ネロがローマ皇帝だった時代に、ローマで処刑された可能性が高い。

74.2ペテロ ペテロは再び教会に手紙を書いた。

75.2ペテロ1:14 ペテロも恐らくネロの統治時代に処刑された。

76.エルサレム市は、神殿も含め、ローマ人に破壊された。多くのユダヤ人が殺され、連れ去られた。

77.ユダ ヤコブの兄弟ユダは教会に手紙を書き、背教について警告した。

78.黙示1:9 ヨハネはエベソに住んでいたとき、バトモス島に追放された。

79.黙示1-22章 ヨハネは主を示現で見て、教会の7つの支部に対するメッセージを受けた。ヨハネはその示現について書き記し、教会へ送った。また、末日に起こる出来事、救い主イエス・キリストを通してもたらされる神と神の王国の究極的な勝利を目にした。

80.ヨハネ21:25 ヨハネは福音書を書いた。

81.1ヨハネ;2ヨハネ;3ヨハネ ヨハネは3通の手紙を書いた。キリストと愛について教え、真理に忠実であるよう会員たちに勧めた。

82.ヨハネ21:20-24 ヨハネはキリストの再臨まで地上でその召しを継続できるように身を変えられた。

83.2テサロニケ2:3 大背教。

モルモン書

84.3ニーファイ11:1-26:15 イエス・キリストはアメリカ大陸に住む人々を訪問し、教え導かれた。

85.4ニーファイ1:1-3 すべての人々が主に帰依し、「すべてのものを共有した……。」(3節)

86.4ニーファイ1:7-18 人々は自分たちの町を再建した。全地に少しも争いがなく、「彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった。」(16節)

87.4ニーファイ1:19 全地が引き続き平和だった。ニーファイは自分の息子であるアモスに記録を渡した。

栄光ある卒業

卒業祝いの夜に
わたしが
1杯のシャンパン
を飲むことは、
そんなに大問題
でしょうか。
そうです。
わたしは自分が
掲げている
標準を理解して
いるのですから。

ガブリエル・ゴンザレス

友人のホルヘがテーブルの向こうからシャンパンのグラスを差し出し、わたしに勧めました。わたしは驚きました。末日聖徒であるわたしがアルコールを口にするのは信仰に反するということを、彼は知っているはずですが、わたしはそつと首を振り、これまでと同じように今夜もアルコールを口にするつもりはないと意思表示しました。

ホルヘは驚いたように額に手を当てて、大声で言いました。「卒業式の夜だっていうのに。」

まさしくその晩は卒業式の夜でした。エクアドルでは、卒業した若者がその日を盛大に祝うのが習わしでした。その夜、卒業生のすべての家族を招いての晩餐会ばんさんかいが始まりました。各テー

ブルの中央には、シャンパンが1瓶ずつ配られていて、ウエーターが豪華な食事を恭しく給仕するのです。卒業生は食後、父親や母親と一緒にワルツを踊りました。

やがて家族が先に帰宅し、卒業生と友人だけが会場に残りました。ホルヘがわたしのところに来てシャンパンを勧めたのは、もう真夜中近くのことでした。今夜だけのことならわたしにとって別に害にはならないと、ホルヘは考えたようでした。特に、



今夜は生涯でたった一度きりの卒業式の夜であることや、ほかの卒業生も皆、シャンパンを飲むのが当たり前だということも、ホルへの心の中にはあったようです。

わたしは短くこう言いました。「今夜が特別な日だということは分かっているさ。だけど、それとこれとは別なんだ。」

酒やたばこの誘いは高校生活を通してずっと受けてきましたが、自分の集う教会ではそれらのものが有害だと教えられていると話し、いつも断っていました。そのように説明すると、それ以上無理強いされることは

ありませんでした。けれど、断る度に友人たちがどのように感じていたかは知りませんでした。

驚いたことに、ホルへはほほえみながら右手を差し出し、握手を求めてきました。そして、「君の態度を、ほんとうに尊敬しているよ」と一言^{ひとこと}言って立ち去りました。

後になってその夜の出来事を振り返ったとき、「標準を掲げる」(「真理を守り」『聖徒の道』1996年9月号、4参照)というゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉を思い出しました。ホルへをはじめとする友人に対して、わたしは標準を掲げたのです。人は、正義を選ぼうとするとき、人々に疎まれるのではないかと心配することがしばしばあるようです。確かに、時には疎まれることもあるかもしれません。しかし多くの場合、人々はわたしたちを認め、称賛に値する標準を掲げる末日聖徒として心に留めてくれるのです。■

ガブリエル・ゴンザレスはソルトレークステーク、マウントエンザイン第3支部(スペイン語支部)の会員です。

秘 境 に 輝



開 拓者としての
役割を
受け入れた
青少年のおかげで、
ネパールにおける
福音の光は
輝きを増しています。

リン・S・トバーム

世 界中の多くの人にとって、ネパールは秘境です。中国のチベット自治区とインドに挟まれたネパールを、地図上で探すのは困難です。ネパールは思いやりと美しさ、そして鮮やかな色の国です。また、サガルマータの国です。サガルマータとは、エベレスト山の地元での呼び方です。

ネパールはヒンズー教と仏教の国でもあります。岩や木、また手が何本もある石像など、崇拜の対象物にはすべて赤い粉が擦り込まれています。そして常になでられているため表面

が滑らかになっています。赤い粉を擦り込む行為は、畏敬の念の表れです。ネパールの人々はなでながら岩や木に象徴されている神に祈っているのです。ネパール語のあいさつである「ナマステ」という言葉は、「あなたの内にある神にお辞儀する」という意味です。

首都カトマンДУは、山の斜面に作られた棚田のすそに位置し、そのにぎやかな町の中心部に末日聖徒イエス・キリスト教会の小さな支部があります。宣教師による伝道が許されていない国で、50人の活発会員が集うこの支部は発展を続けています。この成功の大きな理由となっているのは、ネパールにおいて教会と

く 光



キリスト教の開拓者となっている若い人々なのです。

福音を伝える専任宣教師のいないこの地で、1年に平均12人がバプテスマを受けています。どうすればこのようなすばらしい結果が見られるのでしょうか。ネパールの人たちは一度改宗すれば、互いに教え合うことができます。そしてこれらの若い人々は新しく得た信仰について語ることを恐れてはいないのです。

姉妹と友人

13歳のマニタ・マハルジャンに教会のことを尋ねるなら、りゅうちょう流暢な英語で改宗談を喜んで話してくれるでしょう。マニタは7歳のとき、ウシャ・タパとサビタ・タパという友達の家

近くに住んでいました。この姉妹は、すでに教会に入っていたのです。二人はマニタを何度も教会に連れて行きました。マニタは教会がいつも楽しかったと言います。「小さかったわたしは、支部の会員に可愛がられました。大きくなるにつれて、ピアノの演奏や、音楽の指揮、それに自分の才能を披露できるようになりました。また祈ったり、福音を学んだりするようになりました。ウシャとサビタがこのすばらしい世界に連れて来てくれたことを感謝しています。」マニタは学校で

優秀な成績を修めるようになり、学校の友達を何度も教会に連れて来ています。

この愛の精神は、すぐにもう一人の若い女性を福音に導きました。現在14歳のモニカ・グルングも、やはりタパ姉妹たちの影響を受けたのです。家族はもともとキリスト教徒でしたが、モニカはこの教会に入ったとき、大きな喜びを感じたと述べています。「ここではみんなが愛を示してくれます。わたしもみんなを愛しています。家族の中ではまだわたしだけが教会員ですが、毎週の安息日には弟二人を教会に連れて行っています。」(ネパールでは、土曜日が安息日となっています。)

モニカも優等生の一人です。彼女は学校で教会とモルモン書についてスピーチすることが許されました。学校でこのようなことはめったにありません。しかしモニカはすばらしい生徒であるため、スピーチが許可されたのです。

モニカやマニタは自国の文化への愛を示すために、民族衣装をまとうてネパールの民族舞踊を踊ります。その優雅さと腕前は、素人とは思えないほどです。

心から決意する

ベスウェンガル・ガルティ・クヘトリ(G.C.の愛称で呼ばれている)がバプテスマを受けた翌日、ネパールの政治団体がブント(ストライキ)を起こしました。路上には車が一切走らなくなるのです。G.C.は支部から遠く離れた場所に住ん



でいましたが、会員たちが確認の儀式を行うためにG.C.の到着を待っていることを知っていました。車が通らなくなり、人や動物であふれかえっている道路を、G.C.は片道2時間半かけて歩いたのです。

G.C.は教師を務める学校で、初めて教会について耳にしました。若い末日聖徒の教師が校長と福音について話し合っているのが聞こえたのです。G.C.はすぐさまラメシュ・シュレスタに近づき、質問を始めました。現在21歳で教会員になって数か月のG.C.は、若い男性の会長に召されています。G.C.は「教会は期待していた以上でした」と語ります。彼は永遠の結婚、選択の自由、知恵の言葉、救いの計画の概念

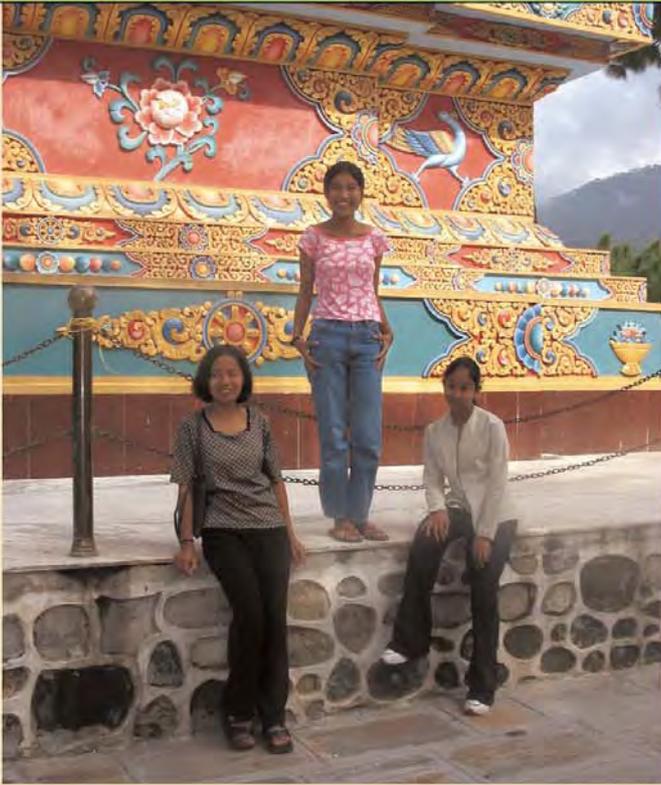
支部の
タレントショーで
踊るマニタ・マハル
ジャン(上)。
スワヤンブナート
寺院を訪問する
ウシャ・タパ、
プリーティ・カダギ、
マニタ(右上)。
友達と運動をする
モニカ・グルング
(右端)。
バクタプル(右)には
神像のある寺院が
建ち並ぶ。



マニタ・マハルジャン



ウシャ・タパ



が好きです。G.C.には、温かい性格と人に対する深い愛があり、支部宣教師という2番目の責任にうってつけの人物です。なぜ福音を教えることが好きなのかという質問に、G.C.はこのように語ります。「すばらしいものを持っているのに、それを分かち合わないわけにはいきませんよ。」

カトマンドゥ支部の発展の主要な鍵^{かぎ}は愛のようです。

新たな高さに到達する

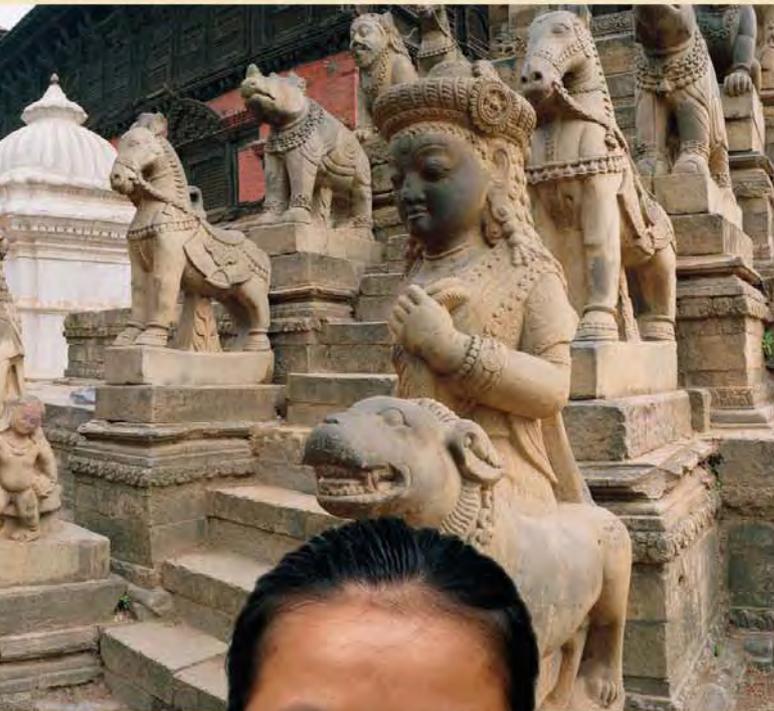
北部のヒマラヤ山脈は、地質学の視点から見るとまだ新しく、地震や雨風の浸食によって常に変わり続けています。同じように、これらの青少年の生活は福音によって変化しているのです。16歳のスマン・シルパカルは、教会のおかげで生活がすばらしく変わったと述べています。スマンはもはや、自信のない恥ずかしがり屋ではありません。聖文が人生のすべての疑問に答えてくれると知っているのです。



プリーティ・カダギは、教会員になってから以前よりも優しくなり、人と話すのが好きになったと述べています。プリーティは、家族全員が教会に入った数少ない会員の一人です。まず父親が改宗しました。父親は、ネパールで最初にバプテスマを受けた会員で、現在は支部長を務めています。

プリーティの母親は教会に入る前に、「どの子供も良い子に育てる」方法を見つける夢を見ました。カダギ家族は、教会によってその夢が現実になったと感じています。プリーティの兄プラティクは、現在インド・バンガロール伝道部で働いています。

ネパールの学生は、高校1年生のときに受け



LINE © 2002 CORPUS CORPORATION DIGITAL STOCK



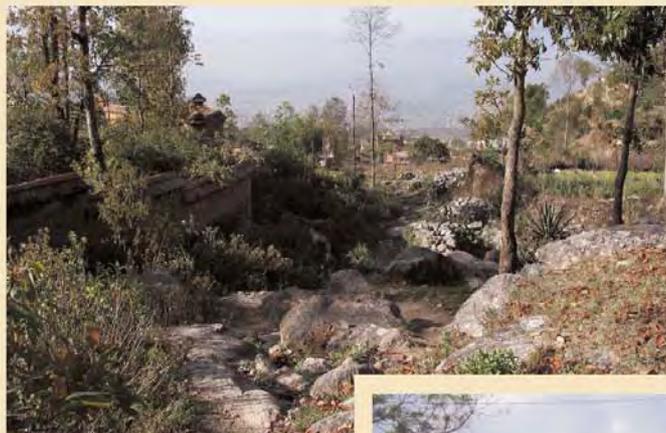
モニカ・グルング



ベスウェンガル・ガルティ・クヘトリ



る試験に合格しないと進級することができません。試験に不合格だと、退学させられるのです。プリーティはこのように述べました。「先生の一人が、安息日に試験のための勉強会に出席するようにと言いました。わたしは教会に行くので、出席できないことを説明しました。」



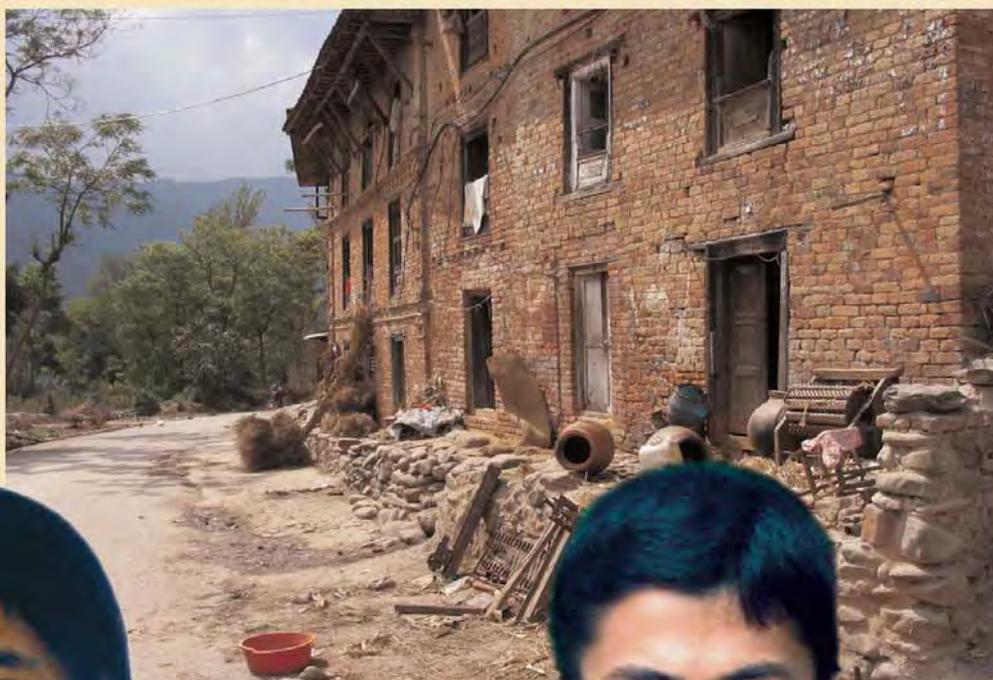
その教師はこう尋ねました。「どうしても行く必要があるのですか。」

「はい。教師の責任があるのです。」プリーティはそう答えました。そして後日、プリーティは「鉄の門」と呼ばれる難関の試験に合格しました。彼女はこのように述べています。「学んだことすべてを思い出せるように、天のお父様に祈り求めました。」

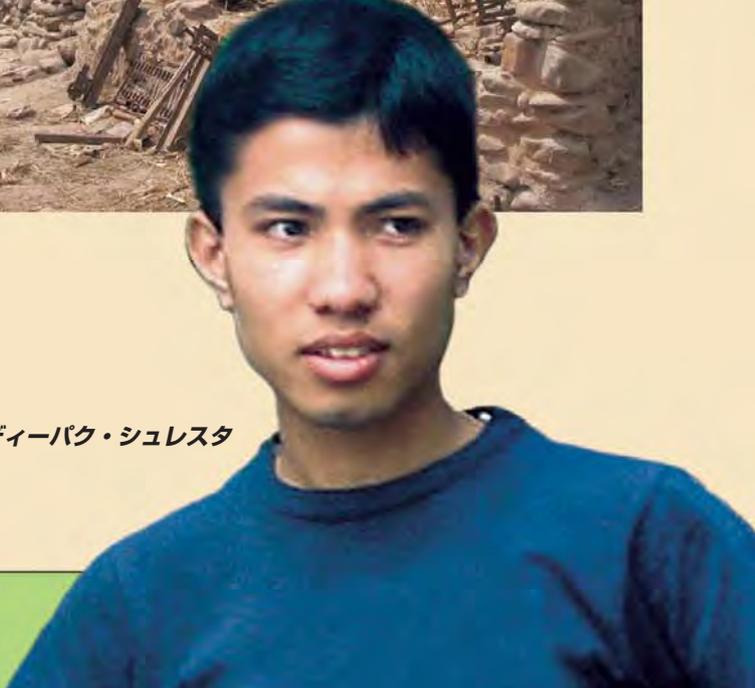
日常の試練

ネパール人の家族にとって、朝いちばんにミルクティーを飲むことは古くからの習慣です。どの路地に入っても、家や商店で小さなかまどを使ってお茶を沸かしています。知恵の言葉に従い始めるのは、多くの若い改宗者にとって難しいことです。

ディーパク・シュレスタはネパール人で最初の宣教師となった兄から、教会は世界中で最も素晴らしいものであると言われて関心を持つようになりました。それから兄は、ディーパクに知恵の言葉を守るようチャレンジしたのです。ディーパクはこの勧告の持つ意味をすぐに理解しました。「知恵の言葉は将来に影響を与える」ものだからです。このときの決意がきっかけとなり、ディーパ



プリーティ・カダギ



ディーパク・シュレスタ



クの福音に対する証^{あかし}は絶えず増し加えられていったのです。

ネパール語のモルモン書を望む

17歳のビッキ・サヒは最近バプテスマを受けました。ほかの多くの末日聖徒の青少年と同じように、ビッキは家族の中でただ一人の教会員です。彼は「正しい道を選んだ」と強く感じています。ビッキは得たばかりとはいえ、すばらしい証があります。このように述べています。「初めて教会に来たとき、心に平安を感じました。悩みや悲しみが消えていったのです。兄弟姉妹たちは愛を示し、イエス・キリストとモルモン書について教えてくれました。戒めを守ることで、習慣を改善することができるようになり、すばらしい気持ちになりました。わたしはイエスがキリストであり、モルモン書が真実であると知っています。」

このような青少年が唯一残念に思っていることは、ネパール語のモルモン書がまだ出版されていない

ビッキ・サヒ



修道院 (36 ページ)
付近のトゥルガウ
(左端)を川が
流れている。
カトマンズ近郊の
バグマティ(左)の
路地。
民族舞踊を披露する
プリーティ・カダギ
(左上)。
雪に覆われた
マチャブチャレ峰
(上)。
ビッキ・サヒの
バプテスマ会(下)。
プラティク・カダギと。



ないことです。英語があまり得意でない人たちにとって、福音を勉強することは困難です。信仰のみによって受け入れ、あとはクラスで学ぶほかありません。英語に堪能^{たんのう}な人にとっても、モルモン書を読むことは困難です。

ネパール語のモルモン書がなくても、このような青少年は学校、教会、文化活動などで多忙な日々を送っています。彼らは歌い、ネパールの舞踊を踊り、ピアノを弾きます。ボーリングやロッククライミングに行き、ゴルフや「タエポー」(訳注——キックボクシングとエクササイズを合わせたもの)にも挑戦しています。また、ネパールの青少年は奉仕活動をし、教会内外の友人との交流を深めています。活気にあふれた生活を送っているのです。

ネパールの壮大な山脈や盆地のただ中で、青少年の声がはっきりと響いています。その声は若く、はつらつとしていて、信仰に満ちています。このような青少年は文字どおり開拓者です。彼らは自分たちの国において福音を推し進めています。このような若い改宗者は、ネパールに宣教師が温かく迎え入れられる日まで、引き続き愛をもってこの国の人々を福音に導いていくことでしょう。

ナマステ。■

リン・S・トパームは夫のW・サンフォード・トパームとともに、インド・バンガロール伝道部で奉仕しています。トパーム夫妻は、ユタ州パロウンステーク、パロウン第4ワードの会員です。

御父の娘の世話を任せられ

アネット・キャンランド・アルジャ

1 月のある朝早く、夫とわたしは、5番目の子供、シャーロットの出産のために、病院に向かって車を走らせていました。妊娠中からおなかの子供が元気かどうかずっと気がかりで、わたしはいらいらして、とうとう夫に当たりました。「健康な赤ちゃんじゃなかったらどうしたらいいの。」

「それでも、愛することに変わりはないよ。」夫はわたしを慰めるように言いました。

ようやく娘が分娩室のわたしの隣に寝かせられると、どこか悪いところはないか注意深く調べました。何一つ悪いところはないように見えたのですが、またすぐに連れ

て行かれようとしたので、不安に駆られて尋ねました。「どうかしたんですか。赤ちゃんは大丈夫なんですか。」

「後で先生からお話があります。」看護師の言葉を聞いて、胸がつぶれそうになりました。最も恐れていたことが頭をよぎ

シャーロットがまたすぐに連れて行かれようとしたので、不安に駆られて尋ねました。「どうかしたんですか。赤ちゃんは大丈夫なんですか。」看護師は答えました。「後で先生からお話があります。」

ったのです。

間もなく、医師から娘がダウン症であると聞かされました。悲しみや疑い、怒り、罪悪感が心に押し寄せてきました。

「どうしてわたしたちが。どうしてシャーロットが。」これがそのときの気持ちです。人生が永遠に変わってしまったかのように思われ、どうすればよいのか分かりませんでした。

シャーロットの誕生の後、次々に試練が降りかかってきました。しばらくすると、



義理の母が卒中を起こし、自宅の車が2台故障し、仕事もうまくいなくなりました。シャーロットには、目や耳、心臓の手術が必要で、病院から請求書が山のように届きました。

ある日、くじけそうになったわたしは、シャーロットを寝室に運び、力なくお祈りしました。「天のお父様、とてもわたしには耐えられません。どうか助けてください。」それからゆっくり立ち上がり、気を紛らわそうと、テレビのニュースをつけました。

トップニュースは、飛行機事故で乗客全員が死亡したというものでした。このとき、生まれて初めて、別の観点からニュースを見ることができました。「だれかのご主人がこの事故で死んだんだわ。」わたしは深く考えました。「もし入れ替わることが可能だとしたら、わたしは夫を亡くす方を選ぶだろうか。」

次は麻薬を売って逮捕された若者のニュースでした。こう考えてみました。「この若者はだれかの息子なんだわ。わたしはその母親になる方を選ぶだろうか。」ほかの人々の苦しみが少しずつ分かってくると、一つの大切な真理を思い起こすことができました。だれもが成長するために試練に遭うという真理です。

シャーロットに目をやると、次の言葉がはっきりと心に浮かんできました。「天のお父様が、大切なかわいい赤ちゃんを送ってくださったのに、なぜそんなに悲しんでいるのですか。」それが答えでした。飛行機事故や麻薬で悩む必要はないのです。——わたしはただ、小さなシャーロットを愛しさえすればいいのです。天の御父はわたしをお見捨てになったのではなく、特別な世話を必要とする娘をわたしに預けてくださったのです。御父からの信頼に気づくと、苦しみが解けていくような感じがしました。

シャーロットはわたしたち家族に、平安と感謝を教えてくださいました。挫折感を味わ

うときもありますが、シャーロットは我が家にはなくてはならない存在です。愛するシャーロットは、天から我が家に送られて来た、小さな贈り物なのです。■

アネット・キャンランド・アルジャはユタ州エンタープライズステーク、エンタープライズ第2ワードの会員です。

わたしが神を見つけたのではなく、神がわたしを見つけてくださったのです

ヨッヘン・A・バイゼルト

1975年、妻のザビーネとわたしはまだ若く、1歳4か月になる息子とともに、ドイツ・ハンブルク伝道部内にある、ツェレという町に住んでいました。

宣教師たちが我が家を見つけるのは、きっと不可能だったことでしょう。何しろ、ガソリンスタンドと自動車修理店の陰に隠れていたのですから。その代わりに、わたし自身を見つけてくれました。それは6月の晴れた日で、駅のベンチに座っていたときのことです。確かわたしは、たばこを吸っていたと思います。

その二人の若いアメリカ人は、ある教会の代表者であると名乗りました。そのとき何を話したのかは覚えていませんが、きっと興味深く感じたのでしょう、翌日我が家に訪問したいという申し出を受け入れていたのです。

宣教師は時間どおりにやって来て、一般の人が受け入れている原則から話し始め

ました。ザビーネもわたしも宣教師に良い印象を抱き、話し合いを楽しんでいました。しかし、話題が神のことに変わったとき、わたしは神もイエス・キリストも信じていないと言いました。宣教師は少しがっかりした様子で、イエス・キリストがアメリカ大陸へ訪れられたことについて記してあるパンフレットを置いて去りました。

次に会う約束はしていませんでしたが、わたしはパンフレットを注意深く読んでみました。しかし、読み進めるうちに、あのアメリカ人たちは気が狂っていると思えてきました。アメリカにキリストが訪れられたなんて。そんな話、一体だれが聞いたことがあるというのでしょうか。

9月のある日曜日、数か月会っていなかった友人が近くに住んでいると知り、立ち寄ってみることにしました。すると彼らは、ちょうど新しい教会に行く準備をしているところでした。彼らが教会に行くのをとても楽しみにしている様子を見て、わたしたちも自然に一緒に行ってみようという気持ちになりました。わたしたちも教会の雰囲気魅了されました。聞くことすべてが興味深く、素直に信じることができたのです。次の日曜日にもまた行きたい、そんな気持ちになりました。

専任宣教師と会員たちから教会について学び始めたのは、その後間もなくのことでした。求道者クラスを教えていたのは、ホルスト・クラッペルト兄弟でした。ホルストと妻のロトラウドには、わたしたち夫婦と共通するところがたくさんありました。夫妻と親しくなり、あっという間に多くの会員たちから招待を受けました。これまで経験したことのない、すばらしい夕べを何度も楽しみました。

教えてくれた専任宣教師の一人は、マックス・フィッシャーという名前の長老でした。3度目か4度目の話し合いのとき、フィッシャー長老は、神を信じていないこのわたし、

ヨッヘン・バイゼルトに、祈るように勧めたのです。その瞬間、10年以上前のある出来事が、突然よみがえってきました。

それは、オスナブリュックにある大規模アパートに住んでいたころのことです。その住人は、互いのことをほとんど知りませんでした。わたしのアパートと廊下を挟んだ向かい側にはカーラ夫人という年配の女性が住んでいましたが、あるとき、そのカーラ夫人から、針に糸をすように頼まれました。わたしは喜んで糸を通してあげました。それからの数か月、週に1、2度、いろいろな手伝いをしに、また、ただ会って話すために、カーラ夫人の部屋によく立ち寄りました。恐らくわたしは、カーラ夫人にとって数か月ぶりの話し相手だったのではないかと思います。

その後、市内のほかの場所へ引っ越すことになったわたしは、引っ越す前に、カーラ夫人のアパートに招かれました。夫人は、針に糸を通したことや、そのほかのこまごましたことに感謝を述べてくれました。それからわたしは、夫人のお気に入りに入りすに座るように勧められました。カーラ夫人は、戸棚から古い賛美歌集を取り出し、「偉大な神よ、な汝れをたたえまつる」という賛美歌を震える声で3番まで歌ってくれました。

その瞬間、わたしの心は和らぎ、神がいらっしゃること、神がわたしの父であられること、そしてわたしのことを心にかけてくださっていることを確信したのです。わたしの心はへりくだりました。わたしはカーラ夫人に、引っ越してから

もできるかぎり会いに来ると約束しました。

5週間後、再びカーラ夫人のアパートの前に立ち、ドアのベルを鳴らしました。インターホンを通して、知らない人の声が、カーラ夫人は2週間前に亡くなったと教えてくれました。とても悲しかったです。

その後、時間に追われ、日々の雑事にかまけているうちに、何年もの歳月が流れ、いつの間にかあのときの経験を忘れていました。けれども祈り始めた瞬間、あのときの思い出がよみがえったのです。わたしは心から天の御

父に祈ることができ、その場にいた当時改宗したばかりの友人や宣教師たちは皆聖霊を感じ、涙を流しました。数週間後の1975年10月18日、わたしはフィッシャー長老から、ザビーネは教会員からバプテスマを受けました。

約1年後に祝福師の祝福を受けたとき、祝福師はこのように言いました。「主は、あなたが主を見つけたのではなく、主がある賢明な目的のためにあなたを探し、見つけたことを、伝えようとなさっています。」祝福師はその言葉がわたしにとっ



カーラ夫人は、戸棚から古い賛美歌集を取り出し、「偉大な神よ、な汝れをたたえまつる」という賛美歌を震える声で3番まで歌ってくれました。

てどれだけ深い意味を持つものかを知らなかったことでしょう。

その後、ザビーネとわたしはさらに3人の子供を授かり、皆教会の教えの中で育てました。愛する隣人であったカーラ夫人は「偉大な神よ、汝れをたたえまつ」と歌いました。わたしたち家族にも、偉大な神を同じようにたたえる理由があります。わたしと家族を真理に導いてくださったことを主に深く感謝しています。■

ヨッヘン・A・バイゼルトはドイツ・マンハイムステーク、ボルムス支部の会員です。



ファイル先生 ありがとう

カール・ネルソン

仕 事の会議で、子供時代を過ごしたマサチューセッツ州マンスフィールドに行く機会があったとき、昔の中学校のホームページを調べ

てみました。現在教えている教師のリストの最後に、クリスティーン・ファイルという名前が載っていました。中学2年ときの英語の先生で、人生に大きな影響を与えてくれた恩師です。

中2のころのわたしは、家庭内の問題に怒りを抱いており、学校のことなどまったく考えていませんでした。どの先生も、そんなわたしの態度や成績の変化にまったく無関心でしたが、ファイル先生だけは、気にかけてくれました。先生はわたしが最善を尽くすまでは、決して納得しませんでした。宿題が返ってくると、よく次のような言葉が書き添えてありました。「あなたならもっとできるはずですよ。もう一度やってみなさい。」そんなときわたしは、「分かったよ。もっと立派にやれって言ふんなら、やってみようじゃないか」と思いながら、しぶしぶやり直したもので

す。ファイル先生のクラスでは、自分が優秀で高く評価されていると感ずることができました。2年が終わると、わたしはクオルター中学を去りましたが、そのときには、学校で良い成績を取める力が自分にもあるんだという自信がついていました。ファイル先生が信頼してくれたおかげです。

その日、ホームページでファイル先生の名前を見ていると、ふいに、先生がわたしの人生にどれだけ大きな影響を与えてくれたか、すぐにでも伝えなければならぬと非常に強く感じました。そこで先生を探すことにし、次の日の正午、仕事の会合を欠席して、クオルター中学へと急ぎました。

ファイル先生の教室のドアを開けようとしたちょうどそのとき、ファイル先生が廊下を歩いて来るのが見えました。「カール・ネルソン！」驚いた表情のファイル先生が言いまし

た。「25年ぶりじゃない! ここで一体、何しているの。」

伝えたいという気持ちが高ぶっていたわたしは、単刀直入に話し始めました。「先生がわたしの人生でどれだけ大切だったか、直接会ってお伝えしなくちゃいけないと思ったんです。中2のときのわたしは大変でした。でも先生はいつも最善を尽くすように励ましてくれました。あのころ、わたしにあれほど期待をかけてくださった人は、ほとんどいませんでした。でも、先生はわたしを信頼してくださいました。そのおかげで、自分の力を信じられ

るようになったんです。先生がいらっしゃらなかったら、わたしの人生はどうなっていたか分かりません。」

わたしの話を聞きながらファイル先生の目が潤んできました。「わたしもあなたに話すことがあるわ。」先生は続けました。「わたしね、ずっと作家になりたかったの。神様が教師をするよう望んでおられるとは感じていたんだけどね。昨日の夜お祈りしたの。この仕事をしていてもだれからも感謝されたことがなくて悲くてね。それで神様に、明日どんな方法でもいいから、だれから自分が感謝されているのだと教えてく

ださい。もしだれからも感謝を受けなかったら、この仕事を辞めて、小説家になりますってね。そして今日、何十年ぶりにあなたが訪ねて来て感謝してくれたのよ。……これ以上の祝福はないわ。」

ファイル先生とそれ以上話す時間はありませんでした。生徒たちがやって来たので、わたしは学校を後にしました。天の御父がわたしを遣わして、御自分の子供の一をお助けになったことを思い、謙遜になりました。ファイル先生とのこの短い再会をつくづく思い返し、憐れみ深い天の御父は、どの教会に所属しようかと、だれであろうと、その祈りにこたえるためにわたしたちの生活に関与してくださるということを痛感しました。■

カール・ネルソンはマサチューセッツ州
ヒンガムステーク、ヒンガムワードの会員
です。

「カール・ネルソン!」
驚いた表情の
ファイル先生が
言いました。
「25年ぶりじゃない!」

御存じでしたか？



ノーブー吹奏楽団

ソルトレーク盆地への旅は、悲しみと苦難だけで占められていたわけではありません。聖徒たちは、困難な境遇にもかかわらず、喜びに満ちていました。西部へ向かう途中、機会をとらえては、度々歌やダンスを楽しんだのです。

1842年初頭、ウィリアム・ピット率いるノーブー吹奏楽団は、ノーブー隊の行軍訓練や特別な行事で演奏しました。聖徒たちがノーブーを離れたときには、その道中での娯楽を提供しました。旅の途中立ち寄ったアイオワでは、住民の前で演奏することもありました。こうして楽団のメンバーは金銭を稼ぎ、乏しい人たちの必要を満たしたのです。西へ向かう途上で、ノーブー吹奏楽団のメンバーは次第にそれぞれの進路をたどるようになりましたが、後にユタ州で再結成を果たし、しばらくの間ともに演奏しました。

「恐れず来たれ、聖徒」

「恐れず来たれ、聖徒」という賛美歌は、多くの教会員にとって、開拓者をたたえる歌と考えられていることでしょう。この賛美歌は、1846年にノーブーを出発した最初の隊の一員が書いたものです。

ウィリアム・クレイトンは、妻のことが気がかりでした。身重で、旅をすることができなかった妻を、ノーブーに残したまま旅立たなければならなかったのです。「恐れず来たれ、聖徒」を書いたの

は、息子の誕生の知らせを受けた直後でした。この曲を書いたとき、クレイトンは間もなく家族と再会できることを知っていたのです。クレイトンは、実は昔からあったメロディーに新しい詞を書いたのです。この新しい歌詞は、移動中の聖徒たちの間に、瞬く間に知れ渡りました。苦しい旅を乗り切るために、聖徒たちは、志気を高める歌が必要だったのです。

多くの開拓者が、旅を終えることなく



亡くなりました。しかし彼らの忠実さのおかげで、今日わたしたちは幸福な時代に生きているのです。わたしたちには、忠実さという開拓者たちの伝統を受け継ぎ、「すべては善し」と声を上げる義務があります（『賛美歌』17番）。



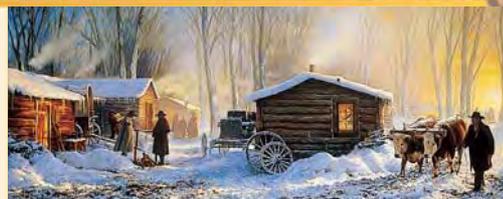
「1847年の開拓者たちは……生命維持に欠かせない新鮮な水を提供してくれる川筋に沿って西を目指しました。……わたしたちも現世の旅を続けるとき、信仰を新たにし努力を維持できるように、キリストの生ける水に沿って歩み、その恵みにあずかる必要があります。」

十二使徒定員会会員

M・ラッセル・バラード長老

「旅について何も恐れる必要はない」

『聖徒の道』1997年7月号, 69



あなたの知識を試してみましょう

1. 聖徒たちがウィンタークォーターズを旅立つとき（教義と聖約136章参照）、ブリガム・ヤング会長は、100人、50人、10人から成る部隊を編成しました。それぞれの隊には隊長がいました。ヤング会長が率いた、中心的な隊の名前は何かでしょうか。

- a. ブリガムの開拓者たち
- b. シオンの陣営
- c. イスラエルの陣営

2. ネブラスカ州ウィンタークォーターズからソルトレーク盆地まで車でどれくらいかかるでしょうか。

- a. 約8時間
- b. 約15時間
- c. 約34時間

3. ヤング会長とその隊は、ウィンタークォーターズからソルトレーク盆地までどれくらいの期間、旅をしたでしょうか。

- a. 約3か月
- b. 約5か月
- c. 約8か月



— I c b 3 a



『リアホナ』 2003年7月号 の活用法

レッスンのためのアイデア

●「信仰をたどって」16ページ——ジョセフ・B・ワースリン長老は、わたしたちが先駆者に恩義を受けていることを思い起こさせています。そして人々に奉仕することで少しずつその恩を返すよう提案しています。あなたと家族がどのように奉仕できるか話し合ってください。次回の家庭の夕べまでに達成できるよう具体的な奉仕目標を立てます。奉仕するとき、犠牲と無私の精神こそが、わたしたちと王国を建設するために犠牲を払った開拓者とを結ぶことを忘れないようにしましょう。

●「栄光ある卒業」34ページ——末日聖徒として、「標準を掲げる」機会について話し合ってください。わたしたちの選択は、周囲の人々にどのような良い影響または悪影響を与え得るでしょうか。

●「いのりという命づな」F2ページ——ジェームズ・E・ファウスト副管長は、家のすぐそばに爆弾が落ちた家族について話しています。爆弾処理隊は爆弾がなぜ不発だったか不思議に思いました。しかし、この家族には理由が分かっていました。家族がともに祈るとき、どのようなことが起こるか話し合ってください。

写真/ケリー・ラーセン。写真はイメージです。
背景の写真/フロイド・ホールドマン、トム・ホールドマン

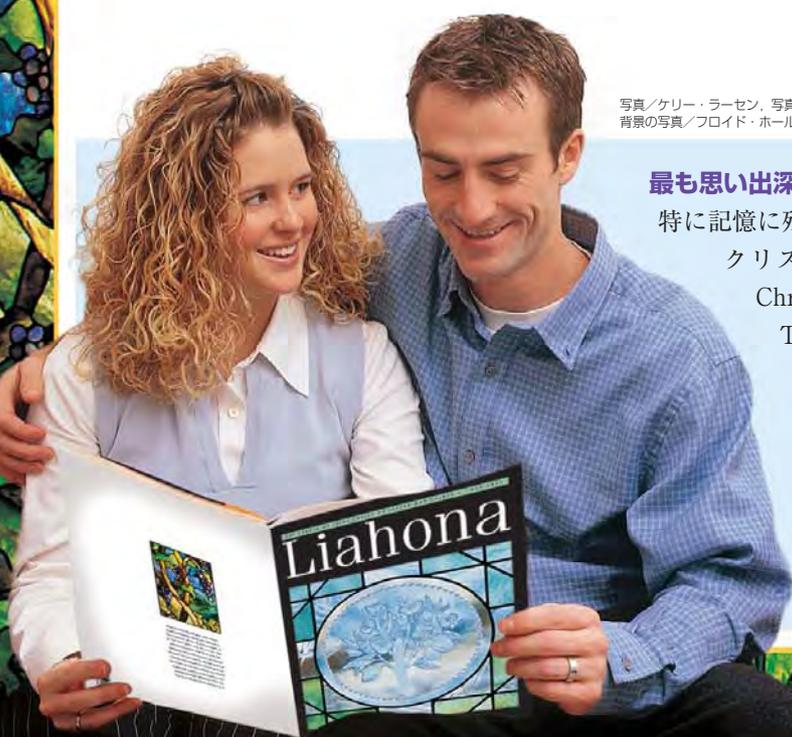
最も思い出深いクリスマスの体験談を募集しています

特に記憶に残っているクリスマスの経験はありませんか。人々を鼓舞し、クリスマスの精神を抱かせる経験を紹介してください。
Christmas Memories, Liahona, Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
またはEメールで cur-liahona-imag@ldschurch.org までお送りください。あなたの氏名、住所、電話番号、ワード/支部名、ステーク/地方部名を明記してください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

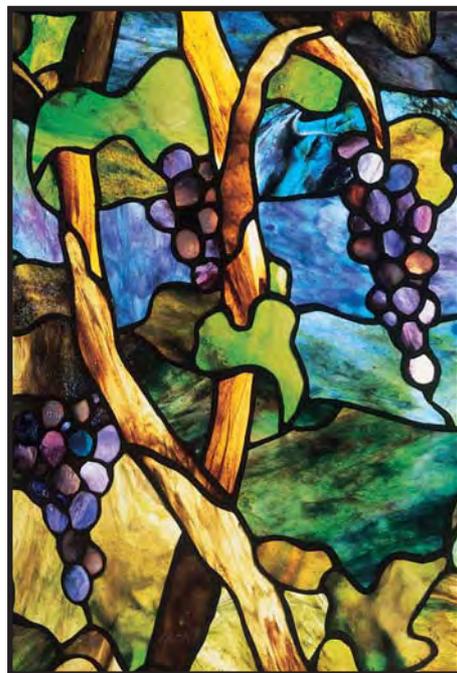
| | |
|-----------|-------------------------|
| イエス・キリスト | 26, F4, F7 |
| 祈り | F2 |
| 癒し | F7 |
| 教え | 42, 48 |
| 改宗・改心 | 42 |
| 開拓者 | 8, 16, 36, 47, F10, F13 |
| 家族関係 | 2, F2, F16 |
| 家庭の夕べ | 48 |
| 家庭訪問 | 25 |
| 感謝 | 42 |
| 犠牲 | 21, F10 |
| 逆境 | 42 |
| 教会歴史 | 47 |
| 芸術 | 8 |
| 結婚 | 2 |
| 使徒 | 31, F4 |
| 指導性 | 48, F4 |
| 従順 | 25, F14 |
| 障害 | 42 |
| 初等協会 | F14 |
| 信仰 | 16, F16 |
| 神殿と神殿活動 | 2, 8, 22, 26, F9, F10 |
| 新約聖書 | 31, F4, F7 |
| 聖文研究 | 31, F14 |
| 世界に広がる教会 | 36 |
| 備え | 22, 25 |
| 知恵の言葉 | 34 |
| 標準 | 34 |
| 復活 | 26 |
| 奉仕 | 21, 42 |
| ホームティーチング | 7 |
| 模範 | 16, 34 |





「海で民を教えられるイエス」ジェームズ・J・ティソット画

「イエスはまたも、海で教えはじめられた。……イエスは譬^{たとへ}で多くの事を教えられた。……。」(マルコ4: 1-2)



ネブラスカ州ウインター
クォーターズ神殿のステンドグラスは、
聖文を題材にしている。
上——救い主は「わたしはぶどうの木」と
教えられた(ヨハネ15:5)。
表紙——エッチングを施した
このステンドグラスは、旧約聖書の
アロン神権の物語を思い出させる。
「モーセが、あかしの幕屋に
はいて見ると、レビの家のために
出したアロンのつえは芽をふき、
つぼみを出し、花が咲いて、あめんどう
の実を結んでいた。」(民数17:8)
「歴史の断片、光のかげら」8ページ参照